

・景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている	通信会社（企画 担当）	販売量の動き	・個人、法人を問わず通信機器の秋の新商品の引き合いが想定以上に多い。特に都市部の量販店での販売が好調である。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	販売量の動き	・ファッション系の店舗の売上がわずかながらも前年実績を超えていることから、若干ではあるが景気の回復感がある。観光は日本人観光客がいまだに低迷しているが、外国人観光客が順調に推移しており、好調を維持している。
		一般小売店〔土 産〕（経営者）	来客数の動き	・9月は道央圏で90万人の避難勧告が出されるほどの集中豪雨があったが、それ以外は秋晴れの日が続き、豪華客船の入港や近隣自治体での男性アイドルのコンサート、外国人観光客の入込などのプラス要因もあり、売上は前年比107.5%と伸びた。
		百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・9月の来客数がほぼ100%と横ばいでの推移ながらも秋物衣料を中心に定価品の売上が回復している。消費税増税のあった春から、季節が変わったことで購買意欲が上向いている。ただし、外国人による売上が前年比で30%近い伸びを示すなど、まだまだ外国人が全体の売上をフォローしているのが実情である。
		百貨店（販売促 進担当）	来客数の動き	・来客数が戻りつつあるなど、徐々に回復している傾向がみられる。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・消費税増税の影響を引きずっていた6月と単純な比較はできないが、3か月前との比較で販売量が9.8%程度上回っている。
		スーパー（役 員）	お客様の様子	・天候が平年並みで推移したこともあり、秋物商材の売行きが良かった。
		コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・市内では店舗の競争が増してきており、売上、来客数ともに影響を受けている。一方、市外の店舗に関しては漁業が好調なことから売上が伸びている。
		衣料品専門店 （経営者）	お客様の様子	・水産関係の水揚げや観光客の入込が良い。催事では高額商品も売れている。
		自動車備品販売 店（店長）	来客数の動き	・9月の来客数が前年並みに回復した。ただし、消費税増税後の価格の高さが定着したことで低単価商材を中心に動いている。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・観光、ビジネスとも、国内客については堅調に推移している。アジアからの来客は中国本土からの直行チャーター便の効果などで好調である。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・前年と比べて、東京便の運行機材が小型化したため、供給座席数が減っており、当地を訪れる観光客も、当地から出発する旅行者もともに伸びしろがない。ただし、現状、ビジネス需要及び観光需要が減っているわけではない。
		変わらない	商店街（代表 者）	単価の動き
一般小売店 〔酒〕（経営 者）	販売量の動き		・販売量がやや伸びていることもあり、今月の売上は良かったが、その理由はよく分からない。客単価については、高額商材の動きは相変わらず良いが、全体の数字を押し上げるまでには至っていない。	
百貨店（役員）	販売量の動き		・9月は天候に恵まれ、気温も平年並みで推移するなど、極端なマイナス要因がなかったにもかかわらず、厳しい結果で終わりそうである。客単価が下落しており、ぜいたく品への出費が抑えられている。	
スーパー（店 長）	来客数の動き		・直近の数か月の動向として、週末の来客数が減少する傾向に変化がみられない。商圏が広域のため、ガソリンの価格高や高速道路料金の休日割引の縮小が影響している。	
スーパー（役 員）	来客数の動き		・ここ3～4か月の来客数の動きをみると、8月がやや増加したものの、9月は8月から1.5%の減少となっている。客単価は前年から3.5%上昇し、商品単価は前年から5.5%上昇しているものの、売上は前年比99.3%と厳しい状況が続いている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・7～8月と比較すると、前年比は回復基調にあるが、消費税増税前の水準には戻っていない。特に、たばこや酒などの嗜好品の売上が前年から5%以上減少している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・消費税増税以降、来客数の回復が遅れている。たばこの売上也引き続き減少しており、影響が大きい。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・中間層の来客が少ない。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税後の反動減がいまだに続いている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・商材の下見に来て、それが購買に結び付いていない。今秋に予定されている電気料金の値上げを気にしているのか、省エネ家電を探している客が多い。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・R V車の販売量が上向き傾向にある。低燃費の人気車種は好調を持続している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3か月前と比べて、売行きはあまり変わらない。サービス部門に使う金額もそれほど変わらず、財布のひもが緩んだという感じはない。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新車、中古車とも、受注量が上向いてこない。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	それ以外	・顧客の高齢化、年金の目減り、若者の量販店志向など、取り巻く環境にマイナス要因が多すぎる。悪い流れは変わらない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が高止まりしているため、客の節約志向が強い。
		高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・客の金払いがそれほど良くない。景気の良い話ぶりの客もみられない。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・9月は連休や週末の売上が上がらず、足を引っ張った。料理教室では、以前人気だったIH調理器を使った講習がなくなり、ガス調理器を使った講習が増えている。電力事情の不安を受けて住宅ではガスへの切替えが進んでいるようだ。
		タクシー運転手	来客数の動き	・9月は雨の日が多かったため、当社のタクシーの売上は前年を若干上回った。ただ、夜の繁華街の人は増えていない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・前月から今月にかけての売上はほぼ前年並みであり、変化がみられない。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・景気の向上は、売上や収入の増加と関連付けることができるが、得意先に話を聞いても状況は以前と特に変わっておらず、悪いままで推移しているという声が相変わらず多い。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・9月25日現在の利用客数が前年比103%とほぼ変わっていない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・数か月にわたり売上が安定しており、大きな変化がみられない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・極端な変化が感じられない。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・食品などは徐々に売上が回復しているようだが、住宅や自動車など、高額商材は買い控えが続いている。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客の動きが鈍い。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順の影響もあり、来客数が減少している。セールを実施しても客の反応が鈍い。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・消費税増税の影響は薄れてきているが、9月に入り、来街者数が減少している。商店街の駐車場において管外ナンバーの車が少なく、周辺の観光地に分散しているものとみられる。また、地域住民が商店街を訪れる際の主要交通手段の1つであるバスの乗降客数は前年と比較すると平日の減少が目立っている。全体的に、日用品などを除き売上を落としている商材が多い。	
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・秋物の洋品雑貨の動きが婦人物、紳士物とも良くない。婦人物はニット、ジャケットの動きがまだ本格化しておらず、紳士物もスーツ、ビジネス関連の売上が前年比90%台前半となっており、非常に厳しい状況にある。高額商材の動きも目立っていない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・例年であれば、夏から秋への季節の変わり目で秋冬物衣料が動く時期だが、今年はなかなか売上が増えてこない。電力料金の再値上げに関する報道後、客の生活防衛意識の高まりから、徐々に来客数、買上客数が減少傾向にある。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・来客数が少ない。
		家電量販店（地区統括）	販売量の動き	・消費税増税の影響が予想以上に長引いている。特に、テレビ、冷蔵庫、洗濯機などの大型家電の売上が6か月連続で不調である。
		高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・ランチタイムは外国人客、観光客の利用もあり、満席になるが、ディナータイムは客単価の低下に加えて、来客数の減少もあり、悪い状況にある。全体の売上は前月に続き、前年を10%ほど下回っており、対策が必要になってきている。
		観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・貸切バスの新たな運賃・料金制度の導入により運賃が上昇したことで、団体旅行のツアー料金が上がり、東名阪方面からの観光客が激減している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・9月の販売量が前年を下回っている。賃金のベースアップなどが騒がれた一方で、法人については需要が上向いてこない。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・円安のため、海外旅行のお得感が薄れており、海外旅行者が減少している。また、ファミリー層の旅行者も減少している。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・旅行の申込数が減少傾向にある。特に、海外旅行が不振であり、円安の影響を感じる。
		タクシー運転手	販売量の動き	・相変わらず景気の動向が見通せない不透明な状況が続いている。前月は、多少持ち直しの兆候も感じられたが、今月に入ってからは、また落ち込んでおり、売上も前年を10%程度下回っている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・今月に入って観光客の減少などから、少しずつ売上が減っている。前年と比較しても約2%の落ち込みとなっている。特に、夜間のタクシー利用が減少している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・8月の大雨による風評被害もあり、輸送量が前年を下回っている。
		住宅販売会社（役員）	単価の動き	・分譲マンションの単価が上昇していることで、客の購入意欲が明らかに低下している。普通の会社員では購入不可能な価格になりつつある。
	悪くなっている	乗用車販売店（従業員）	競争相手の様子	・客の決断力が鈍ってきている。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	○	○	○
(北海道)	変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・4月以降の回復が遅れている。
		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と同程度の受注量が入ってきているが、それ以上の動きはみられない。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・天候不順、物価上昇などの影響により購買意欲がまだまだ高まっていない。東京などの大都市圏は上向きになりつつあるが、地方都市の回復にはもう少し時間が必要である。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建築設計事務所では改正耐震改修促進法に基づく大規模建物の耐震診断業務が増えているが、新築建物の設計業務が少なく、総量としては増えていない。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・引き続き企業の設備投資意欲が高く、工事の引き合いが堅調に推移している。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・医薬品の輸送は順調だが、飲料品は低迷している。東日本地域が猛暑に見舞われなかったことが要因とみられる。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・第2四半期中であるが、計画に対して見込みを修正するような大きな変動はみられない。また、下期に向けて、ある程度状況を見通している客先が多い。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が引き続き堅調に推移しており、景況感も変わらずにやや良い状況が継続している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		金融業（企画担当）	それ以外	・物価の上昇に賃金が追いつかず、消費者の財布のひもは固い。堅調だった建設関連も人手不足と建築コストの増加で工事の進捗が遅れがみられる。観光関連は外国人観光客が増えているが、天候不順の影響で国内観光客や道内観光客が低迷している。	
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引や建物の建築状況などから、3か月前よりも悪くなっていることは間違いない。	
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・最近、客の動向が慎重になってきている。	
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前年と比べて、受注量が若干減少傾向にある。	
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・一部の商材では品薄状態が続き、出荷調整を行っているものがあるものの、一般商材は受注が順調に確保できており、安定した販売量で推移している。	
	やや悪くなっている	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響が出てきている。	
			司法書士	取引先の様子	・消費税増税後の諸物価の高騰にともない、建築資材価格も上昇している。土地を購入し、建物を新築する客の割合も減少している。
		悪くなっている	—	—	—
	雇用関連 (北海道)	良くなっている	—	—	—
		やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から2.2%増加し、55か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から5.3%増加し、55か月連続で前年を上回った。
職業安定所（職員）			求人数の動き	・一部の業種で求人数の減少がみられるものの、全体としては求人数の増加傾向が続いている。新規求人数は9か月連続で前年を上回っており、月間有効求人数は18か月連続で前年を上回っている。	
職業安定所（職員）			採用者数の動き	・8月の就職件数が6か月ぶりに前年を上回った。	
変わらない		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数に大きな変化がみられず、回復するような要因もみられない。	
		求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・派遣、アルバイト、パートなど、非正規雇用の求人数は3か月前と変わっていないが、正社員の求人数が若干減ってきている。	
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ガソリン価格が高止まりしているなか、電気料金の再値上げが実施されれば、個人はもちろんのこと企業にとっても相当な痛手になるため、先行きへの不安感から、求人活動の様子見ムードや広告の出し控えがみられる。一方、観光業界については、東南アジアからの観光客が増加していることで堅調な伸びをみせている。	
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・8月の新規求人数は前年を8.0%下回った。新規求職者数は前年を5.8%下回った。月間有効求人倍率は0.83倍となり、前年の0.81倍を0.02ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は44.2%と相変わらず低く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから依然として厳しい状況にある。	
やや悪くなっている		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数が前年を下回る業種が増えてきている。	
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告件数は、6月以降、前年並みもしくは減少傾向で推移している。地方都市では決して景気が良くなっておらず、募集をしてもなかなか人が集まらないという状況にある。さらに、消費税増税や円安にともなう負担増と今秋の電気料金の再値上げがさきやかれるなか、企業では先行きに対して楽観をできない様子が見られている。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年比91.8%と5年ぶりに前年を下回った。派遣、小売、運輸、飲食などの上位構成業種が軒並み落ち込み、特に小売は約3割の減少となった。ただ、売上2位の医療だけは、介護職などの慢性的な人員不足を背景に求人が3割増加した。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	—	—	—

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東北)	良く なっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・3か月前はまだ消費税増税の影響があったが、今月に入り化粧品の売上が前年の実績を超えている。また、高額商材の売上も回復基調にあり、全般的に景気は回復しつつある。
		タクシー運転手	販売量の動き	・前月、前々月と景気は良く、今月も特に悪い要素はみられない。当社の場合はみんな成績が上がっている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子からは、以前は固かった財布のひもが若干緩みつつあるのがうかがえる。また、商品の単価も少しずつ上がってきており、客の購買の動きも活発化している。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・今月は単価の動きが3か月前や前月と比べて100円ほど上昇しており、上向き傾向である。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・今月の来客数は、消費税増税後もっとも落ち込みが厳しかった6月と比較してやや増加しているものの、ここ数年の平均値となっている。むしろ、客単価の回復がはっきりと数字に表れており、店頭での接客でも、以前のような財布のひもが固い印象とはやや違う感触を得ることが多い。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・晩夏、初秋となりまだ冬物には早いため、二次製品の需要は相変わらず今いちである。しかし、利益率の高い布団づくりは多くなっている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・まだ冬前なので来客数、単価共に悪くはない。今の所は当グループの前年比売上は順調であるが、県全体の前年比売上は大きく減少しているようである。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・いつもより早く気温が低くなり、秋物の動きが良くなってきている。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・消費税増税の影響による衣料品への打撃は大分薄れてきている。ただし、来客数が増加しているのではなく、必要に迫られている客の早めの購入や数を揃えての購入による客単価の上昇で、なんとか持ち直している状況である。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・冬物を先買いする客が例年に無く多い点と、秋物商品の立ち上がり前年よりも2週間早いため、売上を底上げしている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・4月以降は消費税増税の影響により、客の購入能力は十分にあるものの、今すぐには必要ないなどの理由で売上にはつながっていなかった。しかし、ここに来て新規来客数は予想以上に増加しており成果にもつながっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税の影響で買い控えていた個人客の注文が少しずつ入るようになってきている。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・朝晩の気温が下がり、徐々に秋冬物商品の動きが出てきている。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・4～6月は消費税増税の影響で消費が抑えられていた感がある。今も完全には回復していないものの、6月よりはやや上向いてきており、販売量的にもそれがうかがえる。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・低価格商品の加入者が少しずつ増加しており、解約者も減少しつつある。加入者数のトータルは純減であるものの、3か月前に比べてかなり良くなっている。
		テーマパーク（職員）	販売量の動き	・消費税増税が定着しつつあり、客の消費が増加傾向にある。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・団体客などの入込に特に変化はない。しかし、ここに来て予約のないフリーの客が若干増えてきており、来客数、販売量共に増加している。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・週末の天候に比較的恵まれて、近隣で開催されたイベントとの相乗効果もあり来客数が前年越えの見込みである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
変わらない		遊園地（経営者）	来客数の動き	・3連休の2日間はわか雨に見舞われたが、それ以外は例年になく天候に恵まれ、来客数は前年比で4割増である。しかし、税抜き価格の単価は弱含んでいる。	
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	来客数の動き	・前年同月及び3か月前との比較では、来客数、販売額、販売単価共に20%ほど伸長している。	
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・輸出が好調な製造工場の増築に伴い、関連会社の新築工場物件が不動産から工事までを一貫して受注できている。	
			商店街（代表者）	販売量の動き	・3～4月の消費者の熱気はどこに行ってしまったのか。ボーナスシーズン後の7～9月の消費者の購買意欲の減退には回復の兆しが無い。客の様子からは消費税増税分以上の物価上昇に戸惑っている様子がうかがえる。
			商店街（代表者）	販売量の動き	・9月は週末ごとのイベントが多く、その効果により飲食店では活況の音が聞かれている。しかし、同様の効果は物販関係にまでは届いていないようである。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街を人が歩いていない。
			商店街（代表者）	お客様の様子	・秋祭りの山車や神輿の運営団体からは、協賛金、寄付金の額は例年以上に少額であり、世間が世知辛くなってきたとの話を聞いている。
			一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	販売量の動き	・毎月の売上が前年を下回っており、同業者も同様である。
			一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・低価格商品の販売量は好調であるものの、高額商品の動きが鈍く売上額の回復がみられていない。今後の新型商品の販売に期待したい。
			百貨店（売場主任）	お客様の様子	・こちら側の仕掛けに対して反応が良く、購買意欲を感じている。しかし、化粧品以外の自家需要品、アイテムの動きが鈍く、客単価が下がり来客数でカバーできていない状況である。
			百貨店（総務担当）	お客様の様子	・買物の仕方の変化を顕著に感じている。客は本当に価値のあるものであれば多少高額でも買う一方、余計なものは買わない。また、販売数からは、地方で所得がなかなか伸びないなかでライフスタイルに合わせて選択しながら堅実に消費している様子がうかがえる。
			百貨店（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税後から客の購買に回復の様子がみられない。
			百貨店（経営者）	販売量の動き	・9月に入り天候にも恵まれ、紳士服、婦人服、子供服共に動きが活発になってきている。ただし、全体的には消費税増税後の高額商材のマイナス分をカバーするには至っていない。
			百貨店（経営者）	お客様の様子	・今月に入り、婦人衣料品の一部に持ち直しの動きがみられている。しかし、紳士衣料、高級婦人衣料品などについては動きが鈍い。また、物産催事についても購買単価が低いなど慎重な買い方は続いている。
			スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数は、安定しているものの前年並みがやっとの状態である。
			スーパー（経営者）	単価の動き	・前月と同様に平均1品単価は前年比6%以上の増加で推移しているものの、来客数、買上点数共に前年割れが続いている。また、売上高推移は前年並みであり、伸び率にやや陰りがみられる。現在の売上推移に変化はなく、客の財布のひもはさらに固くなりつつあるようである。
			スーパー（営業担当）	販売量の動き	・商売全体の動きはほとんど変わっていない。来客数に比較して販売量の落ち込みは少ないものの、それを支える価格対応を誤ると、すぐに販売量の下落につながりかねない状況である。
			コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・前年より気温が低く秋冬商材の販売に期待したが、前年を上回る実績にはなっていない。
			コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・販売量に変化はみられない。
			コンビニ（店長）	単価の動き	・節約志向が依然として高く、購買意欲はあるものの消費には直結していない。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・気温の低下に伴い来客数は増えてきているが、他店と見比べている様子であり購買にはなかなかつながりにくい状況である。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・建設、土木業関連は景気が上向きであるものの、小売業は依然として厳しい状況である。円安傾向が続くと商品価格に反映し物価高が懸念される。
		衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・前年と比較してスーツ、ビジネス用品の買換え需要が少ない。
		家電量販店 (店 長)	販売量の動き	・販売量、来客数共に伸びていない。
		家電量販店 (店 長)	単価の動き	・前年の数字に近づきつつも客単価が低く売上が前年を割っている場所と、前年をクリアして売上が103%程度に伸びている場所があり、消費税増税の影響からの回復には地方による違いが出ている。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要による反動減の影響で、新車販売が低迷している。
		乗用車販売店 (従業員)	来客数の動き	・来客数の動きに大きな変化はみられない。
		住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・日によって売上に波があり、前月と同じ程度で前年までに届いていない。消費税増税後の回復に向かっていく感覚はなく、足踏みしている。
		住関連専門店 (経営者)	単価の動き	・販売量、来客数共にそれなりにあったものの、高額商材が売れずに小物商品に偏っている。そのため売上総額は期待したほどにはなっていない。
		その他専門店 [酒] (経営 者)	単価の動き	・地元では今月は収穫期のため、飲食店も動きが少ない時期になる。大きな変動はなく、今は小康状態といったところである。
		その他専門店 [パソコン] (経営者)	競争相手の様子	・材料費の高騰もあり、どこの競合相手や取引先も客との見積金額の折り合いが困難なようである。そのため、受注があっても工事に至らず売上の的には以前と変わらない。
		その他専門店 [ガソリンスタ ンド] (営業担 当)	単価の動き	・石油製品の価格が高止まりしているため、節約志向が進んでいる。そのため、販売増を狙って末端価格が下がり収益を圧迫してきている。
		その他専門店 [ガソリンスタ ンド] (営業担 当)	販売量の動き	・依然として燃料油の価格は高いレベルで推移しており、節約志向は続いている。
		その他小売 [ショッピング センター] (統 括)	単価の動き	・買上率は低迷している。
		高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・今年の3月以降から景気は全然良くなっておらず、高級飲食店にとっては本当につらい時期である。また、仕入れ先の市場でも高級なものは売れていない。本格的な景気回復が待たれる。
		高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・そろそろ消費税増税の影響も落ち着き上向くとみていたが、来客数が思ったほど伸びていない。
		一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・特に状況に変化はみられない。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・今月は、来客数の良い日と悪い日が極端であり、景気が良いのか悪いのかわからない状態である。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・今月は、夏の繁忙期と10月以降の秋の観光シーズンの端境期である。祝休日が月の3分の1以上もあり連休もあるため団体客が多少目立っており、かろうじて前年並みの入込である。
		観光型旅館 (ス タッフ)	単価の動き	・相変わらず低単価志向が続いている。
		都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・今月は、連休や飛び石休で個人客の来客数は増加したものの、その反動なのか平日の来客数は減少している。よって、総来客数は横ばいである。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・レストラン、デリカ部門は相変わらず前年割れが続いている。レストランはフリー客の来店が減少しており、予約状況も前年を下回っている。また、消費単価についても前年を下回っており厳しい状況が続いている。デリカ部門は生活に密着している関係もあり、1週間における購入回数が減少しており、防衛意識が働いていることが客の会話からもうかがえる。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宿泊は、お盆期間も満室状態であり相変わらず良い稼働率で推移している。また、一般宴会も予算を上回っている。しかし、婚礼、レストランは悪い状態が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・高額商品の売行き鈍化に変化はない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・景気が上向いているとの声も聞かれるが、末端の客からはその傾向は全くうかがえない。一部の企業に限られることであり、底上げにはなっていない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲に変化がみられない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・顧客訪問時のヒアリングや注文状況からは変化はみられない。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・今月は大口顧客が多く来場したため販売量は増加している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・再来店する来客数は、ここ数月は前年比95～97%で推移している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・これから七五三の時期であるが、最近では貸衣装付き着付け料金込みで安く仕上がる所が沢山出てきたため、美容院に着物を持ち込んで着付けをする客が少なくなっている。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	来客数の動き	・7月から3か月連続して供給高が前年を下回っている。また、受付件数も消費税増税後から前年割れが続いている。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の予約数は依然として2～3か月前と変わらずに低調である。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・9月に入り来客数が減少している。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・繁華街にもかかわらず、夜10時過ぎには客足がほとんど止まっている。土曜日だけは若者達が集まるものの、ただ歩くだけで買物という感覚がないため、当店の来客数には全く影響がない状態である。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・相変わらずフリー客は減少傾向にあり、好調だった秋物の動きも最終週の気温の上昇により停滞しつつある。さらに、消費税増税による反動減からの回復を見込んでいたが、いまだに衣料品の消費に買い控えの影響を与えている様子がうかがえる。
		百貨店（経営者）	来客数の動き	・大都市と地方とでは景況感に大きな差が出ている。都市部の消費者の可処分所得が増えて消費マインドがアップしている一方、中小企業が多い地方においては、所得の拡大局面には入っておらず、必需品の値上がり分、可処分所得が減っている状況がみえる。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・9月中旬に発表された米価は3割減となっている。そのことが、一次産業従事者の所得に係る部分やマインドの低下に繋がっており、急速にブレーキがかかっている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・業績は売上ベースで前年比93%台で推移している。また、台風などの影響で農産物の価格が高騰し、買上点数が減少している。反面、乾物、冷凍野菜などは好調であるが、厳しい状況に変わりはない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・食品メーカーが各社とも値上げの傾向にあるなか、競合他社もチラシ価格を抑えて価格差の感度を下げてきている。客は景気が悪いという意識があり、競合店は値上げのなかでも少しでもチラシの単価を安くする動向が増えてきている。
		スーパー（営業担当）	お客様の様子	・景気があまり良くないなか、スーパーマーケットは出店ラッシュが続いており、競合各社との価格競争が一段と厳しくなっている。また、各社ともチラシの価格を下げ、投入回収を増やしている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・客足は伸びているものの単価の下落が大きい。原材料の値上げに伴う商品価格への転嫁では、値段据置きで減量するリニューアル化で単価は若干上昇するものとみていたが、前年比6%減となっている。客の財布のひもが少し固くなってきているようである。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・消費税増税後から来客数が緩やかに減少している。8～9月が特に落ち幅が大きく4～7月と比較して、マイナス2ポイントと不振な状況が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・消費税増税後、来客数が回復していない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客の1人当たりの買上単価は上昇傾向だが、消費税増税による価格上昇も含め、大きな販売増には至っていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ(店長)	来客数の動き	・9月に入り来客数が減少している。また、単価も下がり気味である。
		衣料品専門店(総務担当)	販売量の動き	・買上点数が減少し、客単価も低下している。地方都市では景気が改善されているとは感じられず、消費税増税前の駆け込み需要により、消費税増税後の購買意欲は上がっていない。
		家電量販店(従業員)	来客数の動き	・来客数が非常に少ない状況が続いている。
		乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・登録車のみならず軽自動車の市場も販売量が前年を大幅に下回っている。
		乗用車販売店(店長)	販売量の動き	・直近の販売台数は前年比70～80%と低迷している。何より新規客の来場数が激減しており、商談数自体が確保できていない。
		住関連専門店(経営者)	販売量の動き	・扱っているものが耐久消費財のため、買い控えがまだまだ続いている。また、新築物件も三隣亡で控え気味となっている。通常9月は異動などにより家具の需要が高まるシーズンに入るのだから、販売量は伸び悩んでいる。
		その他専門店[酒](経営者)	販売量の動き	・今月に入って販売量が減少している。例年9月は静かな月ではあるものの、原油価格、原材料価格の高騰などによる値上げも頻繁にあるため、消費者は日々の生活ではぜいたくはしないという雰囲気がある。
		その他専門店[白衣・ユニフォーム](営業担当)	販売量の動き	・来月より秋冬物の値上げが始まる。それに向けて早めの追加注文のPRをしているが、あまり動きが芳しくない。時期的な問題もあるが、購入に対する不安感のようなものが消費者にはあるのではないだろうか。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・消費税増税後しばらくの間はあまり影響を感じていなかったが、夏以降は来客数の減少、客単価の低下などははっきりと下降の感があり、景気の減速感否めない。
		一般レストラン(経営者)	お客様の様子	・予約の数は多いときと少ないときで極端に分かれており、トータルではやや悪い状態となっている。
		観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・お盆前後は前年より良かった宿泊客の動きが9月に入ってから大きく落ち込んでいる。客の雰囲気からは、旅行に来ているのは中高年の比較的余裕のある層であることがうかがえる。それ以外の顧客層は消費マインドが下がっているようであり、特に県内の客の動きが悪い。
		都市型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・4月以降、個人客のレストラン、宿泊部門の利用は前年割れが続いている。さらに、現在は法人利用の会合の問い合わせ件数も減少しており、会合予約のキャンセルも発生している。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・夏場の需要が落ち着いてきており8月も良くなかった。9月もそれに引きずられたような販売量となっている。
		旅行代理店(店長)	来客数の動き	・月ごとに若干のばらつきがあるものの、申込件数は微減しており夏休みまでの勢いはない。
		タクシー運転手	単価の動き	・客はより安い車を利用している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・3か月前も客が大変少なく苦労したが、最近は夜になると4～5回の乗車がやっとという状態である。とにかく来客数が少ない。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・消費者には所得の伸び悩みと将来への不安がある。12月ごろに予定されている消費税率10%への引上げについての政府見解がカギとなる。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・今まで多かった住宅の仕事がほとんど施工に入った事もあり、新たな図面の依頼が少なくなっている状況である。
	悪くなっている	一般小売店[書籍](経営者)	来客数の動き	・アベノミクスに関する発表があったが、中央と地方とのギャップ感は広く生活者に知れ渡っている。そのため、消費マインドが盛り上がりずらい買い控えの傾向にある。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・消費税増税の影響もあるが、個人の給料が全く上がっていないという現状があり、それがさらに悪循環を招いている。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・来客数の前年比が90%に落ち込んでいる。競合店の出店など環境変化によるものとみている。
		衣料品専門店(経営者)	販売量の動き	・6月が例年より良かったため、7～8月の販売実績からみると今月の売上は少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・客の話題に共通しているのが、消費税率10%への引上げについてである。今はやっと8%の消費税率や法人税減税などに伴う給料体制が整った段階であるのに、今後また経営修正が必要となってくる。そのため、購買意欲が絶望的に低下している。
企業 動向 関連 (東北)	良く なっている	建設業（従業員）	競争相手の様子	・除染工事、大型建設事業、各県発注の防潮堤工事などの発注が順調に推移している。
	やや良く なっている	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・計画よりも少し上乗せした売上を達成できそうである。また、来月もほぼ計画通りの受注が入っている。
		建設業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・官庁工事の受注が順調に推移しており、当初の予定をクリアしている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・生鮮品の出荷が増加している。
		公認会計士	取引先の様子	・小売業関係が消費税増税の影響から脱して業績が回復しつつある。
		その他非製造業〔飲食物品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・首都圏、特に大型小売店向けの出荷に伸びがみられており、大型小売店による景気刺激への売場の努力がうかがえる。
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	取引先の様子	・物流が増加傾向にある。しかし、定期便のトラックの積み込み時間が長くなり遅れ気味になっている。
	変わらない	農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・農協からももの精算書が届いたが、販売単価は前年並みである。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月に入り前半はどのルートでも大きく落ち込んでいる。中盤の連休で少し盛り返したが、全体的には動きが良くない。
		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・天候不順の影響もなく、販売量は前年をキープしている。
		繊維工業（経営者）	取引先の様子	・店頭消費があまり良くないようである。
		木材木製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・住宅部材の需要が減退している。価格も低迷し収益が悪化している。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社の売上は前年より良くなっている。しかし、同業他社は大変厳しい状況と聞いている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・部品加工などのものづくり企業は、前月同様に受注量は堅調である。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に大きな変化はなく推移している。最終製品のメーカー間の競争が激化しているが、その結果が受注量の大きな変化に影響を及ぼすところまでには至っていない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・大手輸出企業は円安の影響による好機となっている。しかし、我々中小企業では取引先からの品質、コスト、納期の要求が厳しさを増しており、その好機をさほど実感できていないのが実情である。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注はあるが単価が低下傾向にあり利益が少ない。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物量が横ばい状態にある。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・同業他社へ乗り換える顧客も出てきており、予断を許さない状況である。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・取引先から受ける感触はあまり変わらない。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・株価上昇に伴い投資意欲も積極的になっている。
		金融業（広報担当）	取引先の様子	・売上が伸び悩んでいる。
		コピーサービス業（経営者）	受注量や販売量の動き	・来客数が減少しており、日々の売上も減少している。客単価、来客数を増やすために新商品を開発中である。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	取引先の様子	・住宅関連では、津波被災の大きかった沿岸地域はそれなりに忙しいものの、一方で被災地から離れた地域では住宅建築意欲は下げ止まりの傾向が続いている。ニュースなどでいわれるような収入増は顕著ではない。
	やや悪く なっている	出版・印刷・同関連産業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注残、売上共にここ3か月間は前年割れが続いており、約5%の落ち込みである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		土石製品製造販売（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・円安や燃料費の高騰が続き、工事価格も大幅に上げなければ採算がとれない。ただし、一気に受注価格を上げる訳にはいかず、まだまだ安い工事価格で請け負っている状況である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車部品は、自動車の国内販売の減少の影響を受けている。また、一部新興国経済に陰りが出ており、その影響で輸出環境が悪化してきている。
		広告業協会（役員）	それ以外	・7～9月は消費税増税後の落ち込みを食い止めることができると期待していたが、業界全体の売上はじりじり下がり続けている。
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・広告の案件自体が減っており、コンペや入札物件も減少している。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・観光地の宿泊施設では、天候不順に加え消費者の儉約意識が働いており定価での販売が困難になっている。
		その他非製造業「飲食料品卸売業」（経営者）	競争相手の様子	・消費税増税後から、ほとんど状況は良くならず非常に困っているという話を聞くが、消費税だけではなく非常に良くない景気で二重の負担になっているという話も多い。
	悪くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・米の出荷に伴う概算金の金額が過去最低となっている。
雇用 関連 (東北)	良くなっている	○	○	○
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人が14か月連続して増加しており、求人倍率も5か月ぶりに1.0倍を上回っている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・相変わらず、建設業界、人材関係、小売業、外食業が中途採用の募集をしている。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・相変わらず派遣登録者数の伸びが低迷している。求職者と派遣先とのミスマッチも多い。
		アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・これといった大きな変化は無く新規の受注も増加していない。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・大規模な小売店のオープンなどによる求人の増加があったものの、他の業種での求人の増加はみられていない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は高止まり状況が続いており、3か月前と比較してもほぼ同水準で推移している。有効求人数についても、若干の変動はあるものの、ここ1年数か月間はほぼ同じような状況で推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数、月間有効求人数共に大きな変動はない。それに加えて求職者が少しずつ減少しているため、就職件数に伸びがみられない状況である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数、求職者数共に微減が続いており、求人倍率も0.9倍中盤で安定している。景気の悪化による採用手控えではなく落ち着いているという印象であり、大きな変化はみられない。
	やや悪くなっている	新聞社「求人広告」（担当者）	求人数の動き	・求人数は地元企業の数が増減しており前年比75%である。中央資本の企業への集中傾向にあり、地元求人企業には諦め感が漂い始めている。
		新聞社「求人広告」（担当者）	周辺企業の様子	・夏の一時金は増額になった企業も多かったが、貯蓄に回っているのか小売店の売上が伸びてない。採用意欲がしぼんだ企業も増えているようである。
		新聞社「求人広告」（担当者）	求人数の動き	・県内及び首都圏からの求人はあるものの、応募が無く予定数が集まらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・これまで前年同月比でプラスであった新規求人数がマイナスに転じており、有効求人倍率も前月より低下している。
職業安定所（職員）		求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で製造業以外のほとんどの業種で減少しており、全体でも1年2か月ぶりの減少となっている。	
悪くなっている	人材派遣会社（社員）	それ以外	・主力の業務請負のメーカーが生産調整をおこなっている。また、他の委託先も受託条件が改悪されて1千万円の営業利益の損失となっており、想定外の悪化である。	

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向	良くなっている	一般レストラン（経営者）	乗客数の動き	・乗客数が前年同月比で2割伸びている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
関連 (北関東)	やや良くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・今年は単価が上がっているランドセルが例年より早く売れだしている。このまま推移するとは思わないが、確実に前年とは違ってきている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・一般客は増えていると感じないが、大河ドラマ放映決定の影響が大きく、目に見えて観光客が増加している。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	来客数の動き	・秋になり、秋のイベント等への客の関心が高く、出足も良く感じられる。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税から一段落したということで、購買について、慎重ではあるが増税直後よりは若干緩んできたような気がしている。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・前年と比べて気温が早く下がり、天候の良い日が多かったことから、消費税増税の影響を感じさせないくらい秋物衣料の動きが早く、イベントなどの集客も好調である。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・売上は前年より悪い状況ながらも徐々に改善傾向にある。
		スーパー（統括）	販売量の動き	・昨年は16日あった真夏日が今年は3日と、過ごしやすい天候が続いたため、衣料品は秋物が好調に推移し、既存店売上は前年同月比を7.9%上回るレベルとなっている。食品も4.0%増と秋物商材を中心に堅調な推移となっている。
		スーパー（商品部担当）	販売量の動き	・天候不順により来客数の伸び悩みはあるものの、既存店における売上は順調に推移している。特に、消費税増税後の基礎調味料関係が回復傾向にある。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年比で売上が100%、来客数が102%と微増である。
		乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・以前と比べ、イベントへの来客数が圧倒的に多くなっている。販売は決まるか決まらないかであるが、残る客が多いので良くなっている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・9月中はそれまでと比べて来客数、車の販売量がやや増えている。消費税増税後は予想以上に車が売れなかったが、少し戻り加減にある。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・春から夏にかけて、徐々に客の動きが良くなっている。
		都市型ホテル（副支配人）	来客数の動き	・9月は個人客メインであるが比較的好調に推移している。前年が悪すぎたので、伸びているというよりも従来の数値に戻ったと言える。
		旅行代理店（所長）	来客数の動き	・夏季シーズン等については、猛暑などの天候不順で伸び悩んでいたが、天候も落ち着いてきているため、邦人、外国人共に来訪客が伸びてきている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・台風や雨天、冷夏など、天候不順であった夏に比べて今日は落ち着いた天候であることや、3連休に台風が襲来するなど不安定な天候であった前年を考えると、良くなっている。
ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・天候不順な月であったが、地元客が多いためキャンセルは少なかった。予算にも達成し、コンペ予約は多くなったが、客単価の低下が顕著である。		
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・平日も休日でも街に人影が少なく、中心街の面影もない。低迷はしているも、売上が何とか前年並みになったのが、せめてもの救いである。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・秋の気配がして気温が下がってきており、人の動きが良くなるはずだが、曇りや雨が多く街中は静かである。敬老の日や彼岸の行事も低調である。野菜の値上がりは足を引っ張っているのではないかと。
		一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・8月から9月にかけて野菜がすごい勢いで高騰した。業者によっては冷凍野菜に切り替えるところも多く、一般の客も値段が高くて買えないという状態である。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・消費税増税による反動減の影響は、徐々に解消しつつある。天候、気温に恵まれ、婦人アパレル等、好調に推移している商品群もあるが、トータルでは前年割れの状況である。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・前年に比べ気温がやや低めに推移しており衣料品が好調である。一方、食品、寝具や食器などの家庭用品は不振、トータルでは3か月前とあまり変わらない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・週末が割と天候に恵まれ、来店が増えて繁盛すると思ったが、思ったほど来店がなく、売上もあまり増えなかった。特に、飲料やプライベートブランド商品についてはあまり増えていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・コンビニ全体でたばこ、ソフトドリンクが前年割れとなっている。たばこは前年比95%と大きく下回っており、消費税増税やカウンター周りの商材が増えてセルフ販売でなくなったことなどが要因とされている。宅配サービスについては確実に利用客が増えている。買物難民というよりは、便利だから利用しているといった感じである。
		コンビニ（店長）	それ以外	・近隣で工事があったため、今月はいつもと比べて少し良くない状況である。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・消費税増税後の反動減は薄らいできているというが、当業界では正直そうは思えない。生活に密着しながらも高額であるがゆえに客がなかなか踏み切れないと強く感じている。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・大規模小売店への来客数はあるようだが、街の小売店は老舗でも苦戦しているところが多い。ならずと景気は変わらないのかもしれない。
		乗用車販売店（経営者）	競争相手の様子	・中古車の売行きは低価格の軽自動車を中心に、高額な車は売れない状態が続いている。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・消費税増税による駆け込み需要が終わってからは、新車、中古車共に低迷している。とにかく台数が出ないという一言に尽きる。
		住関連専門店（店長）	来客数の動き	・季節商材の販売が不振であった夏の時期に比べれば来客数は回復しているが、売上の伸びにつなげている。
		住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・相変わらず来客数は微減傾向である。9月に入り比較的天候が安定しており、来客数の減少がなければ前年比でプラスになるところだが、要因が相殺され、悪い方向のままあまり変わらない状況である。
		その他専門店〔燃料〕（従業員）	販売量の動き	・販売量はわずかに増えてきている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・世間の評判とは逆にサービス業、特に飲食業の客単価は全く上がってきていない。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数が少ない状態が続いている。宴会の流れも低調で、上向く気配がない。
		都市型ホテル（営業担当）	販売量の動き	・ホテルの稼働状況をみると、景気としてはやや良くなっているが、前年同時期とほぼ同じ状況で変わらない。3か月前と比較しても状況的には変わらない。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・為替変動が激しく、現地のホテル代などが上がり、利用しにくくなっている。
		旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・夏季受注は前年を下回り、現在でも前年と同程度の受注量である。9月に入り秋の行楽シーズンでもあるが、旅行を申込み客が少ない。また、海外出張や旅行も少ない。
		タクシー（経営者）	お客様の様子	・夜の動きは良くないが昼の動きが少し良くなり、前年同月と比べて5%の増収となっている。
		タクシー（役員）	お客様の様子	・円安が進み燃料価格が上がっているため、先行きが不透明である。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・新規加入件数よりも解約件数が上回り、なかなか改善が見られない。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響を受け、新築などの購入額が大きいものについては販売数が減少しており小康状態となっている。
		通信会社（局長）	お客様の様子	・競合環境も厳しくなる中、出費を抑えようとする客の様子に変化はなく、景気も変わらない。むしろ、競争が厳しくなっている分、景気後退感を感じている。
		競輪場（職員）	お客様の様子	・入場者数、購買単価共にほとんど変化がみられないからである。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・8～9月に独立した美容院が一気に10店舗くらい増加したが、その後の入店客数は計画どおり進んでおらず、客が入店していない状況が続いている。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	お客様の様子	・来客数は若干上向いているが、単価は横ばいである。予約状況等や各テナント会の報告を見ても数字は横ばいで、販売量、総売上も横ばいである。そのため変わらないと判断している。
		その他サービス〔イベント企画〕（職員）	お客様の様子	・地方では景気回復を感じられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・仕事の依頼数は多く、納期が延びてきている。
		設計事務所（所長）	来客数の動き	・3か月前と比べて案件は多少あるものの客の動きがあまり良くない。今月は行事が多いのか来客数も少ない。
		住宅販売会社（経営者）	競争相手の様子	・土地についてはやや下げ止まってきたが、まだ物件の売り物が多いため、値下げ競争が続いている。貸店舗、貸家、アパート等の空室もまだ多く、家賃についても若干デフレが続いている。地方の景気はちっとも回復している様子がない。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・客の来店サイクルが長くなっている。息子世代の家庭においてはレクリレーションや外食が減って生活に潤いや余裕がなく、消費を切り詰めているのがよく分かる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・秋の運動シーズンに入り、今年は大分悪いと思っていたらその割に前年同様の動きがあり、9月はまあまあである。
		百貨店（店長）	お客様の様子	・衣料品はやや動き出したが、貴金属等の身の回り品、書籍の売行きが低迷している。食料品も安価な物に需要が集中している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・冷夏に近い天候のため、例年9月も売れる盛夏商材の売行きが鈍い。周辺競合店を含め、値下げが多くなる見込みである。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数が減少したまま1年近くになるが戻らない。
		衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・8月は悪かったが、9月に入り消費税増税にも幾分慣れや諦めが出てきたのか、初旬は客も入り良い雰囲気があった。ところが中旬以降は客の動きがぱたっと止まり、全く出て来なくなった。天候などの問題ではなく、どこか不安な要素があるという様子である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・競合他社が新型車を出してきているため、9月の決算時期でも販売量の増加がない。
		乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・消費税増税以降、登録車の販売台数の低迷が続いており、軽自動車の販売台数は増加している。車検入庫も低価格車検を希望するユーザーが増加している。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・付加価値的な商品の動向が芳しくない。必要な機能のある商品の中で安価な物にシフトしている。買上点数は減少傾向にある。
		高級レストラン（店長）	お客様の様子	・春ごろまでは少し明るい兆しを感じられていたが、8月終わりから今月にかけて急速に客の購買意欲が冷え込んでいる。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ランチの客数はそんなには減っていないものの、徐々に減りつつある。ディナー客は極端に少ないため、売上が伸びない状況である。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・客単価が下がってきている。宴会需要も減っている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・極端に暇な時と忙しい時の差があり、なかなか読めないため、仕入などが大変になっている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・あつという間のひと月であるが、9月は本当に良くない。アベノミクスは地方にはなかなか来ていない。どうしたらいいのか、良い答えがあったら教えてほしい。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・大手企業については景気の良い話を聞くが、市内の中小企業は消費税増税の関係などもあり、皆財布のひもが固く、飲み会などは差し控えている状況である。駅周辺では、駅の改装工事や大きな立体駐車場など、いろいろな工事が目につくが、依然として景気はあまり良くない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・地方では車がないと生活できない。飲み会など酒を飲む席に車で行く人が多く、今までは運転代行などが流行っていたが、飲みに行く人が少なくなったのか代行車が余っていて2社ほど営業をやめたようである。深夜なども相変わらずタクシーを利用する人が少ない。
		タクシー運転手	単価の動き	・夜のタクシーの動きがやや悪くなっている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・台風の襲来、雨続きの冷夏で、この夏は過去数十年にさかのぼっても例のないほど少ない来客数になってしまった。
		設計事務所（所長）	来客数の動き	・今月はほとんど問い合わせもない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社 (従業員)	それ以外	・別荘を解約する顧客が増加傾向にある。
		住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・消費税増税の特需も落ち着き、新規顧客は動きが鈍い。
		一般小売店〔衣 料〕(経営者)	販売量の動き	・台風などの影響がなかったのは良かったが、毎月悪くなるような感じで、経済的にはあまり良くはない。
		家電量販店(店 長)	単価の動き	・昨年の9月は消費税増税前の駆け込み需要が始まった感があり、新築やリフォームの影響からエアコンの販売量が上がり、単価も10万円近かったが、今年は9万円近くまで下がり、金額比で70%を割り込んでいる。全体では90%前半の着地予想で景気は悪い。
		通信会社(経営 者)	販売量の動き	・依然、東日本大震災後の低迷から回復せず、販売量は底を打ち続けている。
企業 動向 関連 (北関東)	良く なっている	その他製造業 〔環境機器〕 (経営者)	受注量や販売量 の動き	・3つの本業の内、2つは相変わらず順調、現在の副業である太陽光発電も2つ目の0.5メガ発電について、大手電力会社と11月から連携がスタートすることが決定しているため、良くなっている。
	やや良く なっている	化学工業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・前年比では変わらないに近いが、3か月前と比較すればやや良くなっている。
		窯業・土石製品 製造業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・受注量、販売量共に微量ながら増加している。
		輸送用機械器具 製造業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・主要取引先である自動車完成メーカーの輸出が増加傾向である。
		建設業(開発担 当)	受注量や販売量 の動き	・当社は公共工事主体の建設業だが、公共工事の発注額は前年比5%増、特に、市町村関係は10%増という地方企業には有難い状況で、当社の公共工事受注も前年比8%増となっている。ただし、相変わらずの競争入札で最低価格の受注が続いているため、以前に比べ利益が厳しい状況が続いている。
		建設業(総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・ようやく全般的に工事量は多くなってきたようである。
		広告代理店(営 業担当)	受注量や販売量 の動き	・携帯電話や住宅などの宣伝広告出稿が活発化している。携帯電話は新機種、住宅は来年の更なる消費税増税に伴う販促が多い。
	変わらない	食料品製造業 (製造担当)	受注量や販売量 の動き	・販売量はほぼ横ばいである。
		食料品製造業 (営業統括)	取引先の様子	・原油価格高騰の影響で運送費など資材価格の値上がり響き、原価の高騰は避けられない状況にある。また、来場者数は平年並みに推移している。
		電気機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・取引先からの受注の動きが下降気味であるが、下期に期待している。
		電気機械器具製 造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・大きな変化はない。試作から量産につながっていないのが残念である。
		精密機械器具製 造業(総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・取引先からの大口受注により量的には相応の水準を確保したものの、全体的な受注件数は引き続き低迷しており、必ずしも右肩上がりといえるものではない。厳しい状況が続いている。
		輸送用機械器具 製造業(経営 者)	受注価格や販売 価格の動き	・受注先、販売価格、取引先の様子、いずれもあまり変わらない。
輸送業(営業担 当)		取引先の様子	・9月に入り予測以上に涼しい日が続き、冬物の暖房器具家電や、エクステリア、園芸用品などの物量が増えている。特に、ホームセンター、インターネット通販向けが増えている。しかしながら燃料価格の高止まりにより、利益は薄くなっている。	
金融業(調査担 当)	取引先の様子	・企業の景況感に格差が生じている。海外需要を取り込んでいる輸出企業で好調な企業がある一方、国内では消費税増税の影響が続き、回復が遅れている企業もある。		
金融業(経営企 画担当)	取引先の様子	・一部の企業は売上が増加しているものの、大半は売上増につながっていない。		
金融業(役員)	受注価格や販売 価格の動き	・市場のバイが少なくなり非常に競争が厳しくなっている。円安で原材料が上がってきているので受注単価が厳しく、採算割れの状況である。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
	やや悪く なっている	不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・建物管理の業務が新たに増えたものの、従来から管理を行っていた取引先のグループ会社のため、同じビルの業務の年間頻度を落として、減少分を新規業務の回数に振り替えることとなり、トータルでは変化がない。	
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・チラシ出稿量が半年ぶりに前年を上回り、102.7%となったが、内容は創業の周年に当たった大型店が2店、新規開店が1店などで、回復傾向と見るのは早計とも思える。	
		経営コンサルタント	取引先の様子	・食品小売業、食品製造などはやや持ち直したが、飲食業がまだ思わしくない。消費税増税後の反動減からはやや回復したが、まだ十分でない。一方、物流や製材など建設関連には業況が安定しているところもある。	
		司法書士	受注量や販売量の動き	・一進一退を繰り返していて、3か月前と比べてやや良くなっているというところまではなかなか言い切れない。	
		社会保険労務士	取引先の様子	・売上が多少伸びても、材料費などの経費が上がっているため利益に結び付かない状況である。	
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合い、受注量共に特段の変化は見られない。	
	悪く なっている	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・細かな引き合いはあるものの、受注量は大幅に減少してきており、対応に苦慮している。	
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・家庭用の換気扇を製造している会社に部品を納めており、例年であれば9～1月は繁忙期で夏と比べて大体倍くらいの生産をするが、今年はどうしたことか反対に夏よりも少なくなり、かなり落ちている。例年と比べて5割減くらいになる見込みである。	
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末用商材の受注は相変わらず低調で、催事をしても来場客が減少しているため盛り上がり欠ける状況である。	
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ビルの清掃管理の頻度が少なく受注されるようになってきている。	
	雇用 関連 (北関東)	悪く なっている	○	○	○
		良く なっている	○	○	○
		やや良く なっている	—	—	—
		変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・食料品や衣料等の小売販売業の募集は相変わらず出ているが、製造業等の募集はかなり少なく感じる。夏物衣料は買い控えがあり、冬に向けて少し補充する程度で、依然として厳しい状況である。ガソリン等の燃料価格も上がったままである。暮れに向けての物流の動きで、運送関係の運転手募集が出ている。
		人材派遣会社（管理担当）	求人数の動き	・派遣求人の増えた企業と減った企業が同数で変わらない状況である。夏に伸びる麺類の製造派遣も天候の影響で変わらなかった。	
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・中小零細企業の賞与や残業が減っている。	
		人材派遣会社（支社長）	雇用形態の様子	・アルバイト、パート、契約社員などでの雇用形態ではなかなか人が集まらないので、企業が正社員求人へと募集形態を変えてきている。各企業の採用担当者の話を聞くと、正社員と書いた途端に反応があったというところもある。	
		求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・求人募集をしているのはいつも同じ企業で、9月は有料の求人誌などに募集を掲載する企業は減少している。	
やや悪く なっている	学校〔専門学校〕（副校長）	求人数の動き	・例年に比べ正社員として雇用する求人者数、求人企業数共に増えている。パートの求人数も増えてきているが、それに対する新卒希望者は激減している。		
	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・今まで3か月前までは忙しかったが、これから3か月は仕事がなくなり暇になる予定である。		
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内の主要産業である小売業の求人数減少が著しい。消費税増税の影響が出ているようである。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年比で求人数はプラスであるものの、求人倍率が徐々に低下している。
	悪くなっている	○	○	○

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (南関東)	良く なっている	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・宝飾、高級時計など的高額品はいまだに消費税増税の影響が残っているが、衣料品、日用品、食料品の販売量については気温の冷え込みと共に順調に推移しており、前年を超える日が続いている。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減があった高額品や化粧品などが回復してきたことに加え、気温低下によりセーター、ジャケットなど秋物の動きが良く、紳士、婦人共に衣料品が好調である。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・ここ最近、様々な知恵を絞っているため、販売量と売上が若干上がっている。
	やや良く なっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・残暑の厳しかった前年に対し、今年は気温の低下と共に秋商材に動きがみられた。婦人アパレル関連では、コート、ニット類が動き出したことにより、売上高は前年を上回っている。食料品に関しては、ギフト商材の解体セール、物産展が好調である。購買単価はようやく前年を捉えるまでに回復している。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・衣料品でコート、ジャケットなどシーズンを先取りするアイテムに動きがみられ、単価上昇につながっている。
		百貨店（計画管理担当）	お客様の様子	・9月に入り天候が秋らしくなったため、秋冬物の衣料の動きが良くなってきている。景気回復によるものかどうかは引き続き10月以降をみていく必要があるが、9月は良くなっている。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・今月は昨年よりも気温の低下が若干早かったこともあるが、プロ野球の感謝セールなどのイベントや特売日に向けて客の買物動向が良くなっている。また、6～7月よりも頻度性の高い商品に対するの購買量が伸びてきている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・今月は中旬から天候にも恵まれ、前年9月に比べ、冬物衣料の動きがやや良くなり、3か月前より景気が上向いてきているように感じる。
		衣料品専門店（営業担当）	販売量の動き	・今月は初旬から気温が下がって秋の立ち上がり早く、近年にない売行きで始まったため、前年比120%となっている。細かい仕入れと飽きさせない品ぞろえで売れてきており、7か月連続で前年を達成している。
		家電量販店（経営企画担当）	来客数の動き	・前年比で買上客数が102%、売上額でもわずかがだがプラスに推移している。ただし、内容をみると商品別で良い、悪いのまだら模様である。天候不順が要因と判断している。都市型モデルのメリットも数字になっていると考えられる。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・四半期決算の月ということと、チラシやダイレクトメール等を増やした効果もあり、前月までと比べてかなり販売量が増加している。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	販売量の動き	・ファッション販売店を中心に、物販店が前年並みとなっている。しかし、前年は台風の影響で良くなかったため、今年は上積みがあつてしかるべきである。また、近隣競合店のリニューアルオープンの影響もあるため、景況判断が難しい。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・客単価が上昇してきている。消費税増税はあまり関係ないような気がする。安いものよりも美味しいものをお金を出しても食べたいという考えであり、当店は単価が上がっている。
		旅行代理店（経営者）	単価の動き	・国際線航空券、宿泊施設など旅行の選択肢を提示した際、金額の高い方を指定する顧客が目立つ。
		通信会社（社員）	来客数の動き	・契約数は計画どおりに推移している。ただし、解約数については減少せず、増加傾向のため予断は禁物である。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・3か月前は梅雨の時期で閑散期であったが、9月になるとようやく秋の訪れを感じ、旅客が増えてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
変わらない		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・前年同時期に比べ、ゲスト、ビジターの来場が1割増である。
		その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	お客様の様子	・消費税増税後の反動減での底の状態は脱したと言えるが、諸物価が高騰している中で客の動きをみると、やはり財布のひもが絞られる感が非常に強く出ている。年度末に向けていくつかの新車が出るが、それがどのように影響するか読めない。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・比較的長期間かかるプロジェクトへの提案を依頼されている。先方が契約を締結してから当事務所への発注になるため、売上に直接結び付くものではないが、このような企画が上がることで、景気が上向いていることなのでないか。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字を達成しており、3か月前と比べてもやや良い。先月、今月と客に動きが出てきている。来場者数は増えていないものの購入意欲が高く、具体的な検討をする客が増えており、注文建築以外でもリフォーム希望の客が増えている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・契約数が上向き始めている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順に大変頭を悩ましている。このような状況が続くと大変である。何とかいつものような天候に戻ることを願っている。
		商店街（代表者）	それ以外	・8月のクレジットカード売上でもとても良い数字が出て、9月も引き続き好調である。6～7月が若干良くなかったのでやや良いとしたいところだが、飲食などはあまり良くはなく、業種によってばらつきがあるため、全体では変わらないとした。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・近年の高温の秋に比べて幾分涼しかったため、その分の下振れはなかったものの、祝日、連休では消費意欲が低い。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	販売量の動き	・キャンペーン商品などを勧めて購入する割合は高い。マンション購入や引越客の来店があったため、そこそこ商品は動いたが、その他では大物はなかなか決まらない。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・地域点在型商店街の1店舗のため、客が商店街に足を向けるには厳しい環境だと思う。
		一般小売店〔米穀〕（経営者）	販売量の動き	・生活必需品である米だが、活気があるような売上まではいっていない。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・来客数は前年並みだが、下旬に入ってから売上が伸び、前年をクリアしている。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	お客様の様子	・涼しい日々が多くなって煎茶の売上が少しずつ回復してきているが、企業用のお茶の売上は思わしくない。しかし、個人向けのお茶の売出しでは、前年同月を上回り、個人のお茶に対する購買意欲は回復してきている。新規営業をしても、企業用のお茶はコストダウンの話ばかりで、個人ユーザーとは対照的である。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今年のトレンドのファッション品に関しては購買意欲はあるが、日用品に関しては節約志向である。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響はほぼ和らいできているものの、物価の上昇、燃料価格の高騰、実質賃金の目減り等もあり、8月ぐらいには回復してくるという予想は外れ、なかなか景気が良くなり、いまだに不透明感が漂っている。前年比100%前後で一進一退の状況である。
		百貨店（総務担当）	単価の動き	・世間一般的な景気は良化していると思うが、当社のような小売りについては特に良いとは思わない。客は目的買いが多く、無駄なものは買わない傾向が続いている。その結果、買上単価が下がっている。
		百貨店（広報担当）	お客様の様子	・先月から引き続き、時計など高額品の売行きが好調である。月初に行われた得意先向けの婦人雑貨、宝飾など的高額品の特別販売会も盛況であった。店舗全体でも来客数が前年を超えており、売上拡大のペースは定着しつつある。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・株価上昇が維持された中で高額品の動きが比較的に良い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・主力のファッション部門で秋物が好調に推移し、前年をプラスで推移しているが、気温の低下や台風による大幅な売上減など天候による影響が大きく、景気動向によるプラスとは捉えていない。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・気温が縮まり秋物衣料の動きは良かったものの、相変わらず高額品の動きは鈍く、消費に対する力強さは感じられない。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・売上は前年並みに回復してきているが、それ以上の力強さは感じられない。
		百貨店（副店長）	販売量の動き	・9月は前年の売上と変わらない推移である。消費税増税後の景気回復とはまだ言えない状況である。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・高単価商品の動きが変わらない。
		スーパー（販売担当）	単価の動き	・競合との価格競争もあり、販売単価が下がっている。数量的には前年よりも客は買ってくれているが、単価が下がっている分、トータルすると1人当たりの買上額が前年に到達していない。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・単価が上がって来客数が落ちている。売上は何とかクリアしてるが、決して良い状況ではない。変わらないと回答したが、やや悪い方へシフトしている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・買上点数が前年比95.1%で推移している。買い得品を出しても客が買物かごへ入れてくれないため、非常に厳しい状況である。点数、単価共に減少しており、なかなか売上に見合う施策がみえてこない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数、単価は前年並みだが点数の増加がみられない。日々の買物で買い回りをしている様子で、余分な買物をする客は減少している。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・消費税増税のマイナス分は解消されており、販売量、買上単価共に堅調に推移している。
		スーパー（仕入担当）	それ以外	・天候要因もあるが、客は無駄な買物をしない傾向にある。客単価も消費税の増税分程度しか上がらず、同じ品質であれば価格の安い方へ移ってきている。買上点数の鈍化により売上に影響が出てきている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・9月に入り、夜の来客数が少し落ちてきている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・天候不順もあって、伸びるべき来客数が伸びていない。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・9月前半より後半の単価が悪くなっている。台風の発生が少なく、ある程度の天候の予想ができて運営しやすいが、買上点数の伸び悩みは続いている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・買上数は変わらないが、金額が減っている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・消費税の外税表示は客にとって多少ずれを感じることもあり、買上点数の減少が少なからずみられ、買い控えの原因になっている。
		コンビニ（商品開発担当）	来客数の動き	・来客数に回復の兆しがみられない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・今月は秋物商戦で大きく仕掛けたが反応が悪い。顧客の来店数が前年同月より少ない、商材、価格もいろいろ考えているが、とにかく反応が少ない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・旅行、同窓会などの話は聞こえるようになってきたが、買物には慎重で、特に、ポイントのたまるクレジットカードの利用者が増えてきている。売上はさほど伸びておらず、景気回復の実感がない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・来店客が購入に慎重である。秋の導入期だからか買上につながらないことが多い。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・ここ最近、消費税増税後の反動減から落ち着きが出てきており、大きな変化はない。
		家電量販店（統括）	お客様の様子	・来客数は依然として増えず、単価も低い。全体的に購買意欲がまだ低迷している。この傾向が大きく変化するような要因は見当たらない。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・店舗によっては来客数があるが、例年に比べると悪い。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・客の購買意欲は先月と変わっていない。今後、改善されるような対策などないため、先行きが不安である。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・やはり消費税増税が予想以上に影響し、販売量、売上が予想をはるかに下まわる厳しい状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他小売 [ショッピング センター] (統 括)	お客様の様子	・気温の低下により秋物商材の動きが良く、目標数字を確保しているものの、景気が良くなってお金を消費しているような雰囲気はない。家電関連の工事請負業者も春の特需以降は商売がまるっきりだめだと話している。
		高級レストラン (副支配人)	来客数の動き	・宴会予約の推移からの判断である。
		一般レストラン (経営者)	競争相手の様子	・近隣で、デング熱という思いもよらない突発事故があった。終息をみない今もその影響は同業で多々ある。
		一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・前年比でみて、3か月前の6月1～26日までの売上は、98.6%、来客数95.5%であった。今月は、1～26日までの売上が106.9%、来客数101.3%という結果である。
		一般レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・悪くなってから結構時間がたっており、それ以上は落ちていないため、少し悪くなった状況で変わらない。
		旅行代理店(従 業員)	お客様の様子	・内容よりもとにかく値段重視であり、他社と値段だけのために競わせている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・オフィスビルを深夜の営業場所に行っているが、業種によって差があるようで、全体の景気がつかめない。
		通信会社(経営 者)	販売量の動き	・テレビ、インターネット加入共に低額の集合パルク契約が多くなり、顧客1人当たりの月間売上高が低減しているものの、獲得数は予定を上回っている。また、携帯電話の獲得が9月前半はかなり厳しく、新型スマートフォンの効果が現れるのは10月以降へずれ込む見込みである。
		通信会社(経営 者)	単価の動き	・高額品サービスの販売が伸びていない。
		通信会社(管理 担当)	販売量の動き	・例年だと8～9月は販売量が落ち込むところだが、今年は比較的落ち着いている。
		通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・所得が増えない中、消費税等の税金支出が増えており、客は支出を控えているようである。今年4月に開始した電話のサービスも申込は増えてはいるものの、やや一服感が出始めている。
		通信会社(営業 担当)	単価の動き	・ここ最近、競合他社よりも安価なサービスや当社のサービスの中でも安価なサービスに需要が傾く傾向が続いている。
		通信会社(局 長)	販売量の動き	・世間では新型スマートフォンの発売による客の購買動向がみられるが、当社のようなケーブルテレビ業界においてはあまりその恩恵はなく、逆に前年同月比ではマイナスのサービスもみられる。
		通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・加入、解約動向からは変化を感じられない。下位コースでの加入比率と固定費用削減を理由とした解約は相変わらずである。
		通信会社(総務 担当)	単価の動き	・食料品の価格が一部上昇している。特に、生鮮品は異常気象によるものなので、総体的には変化はない。
		ゴルフ場(従業 員)	来客数の動き	・昨年11月あたりから来客数は増えており、天候の影響が大きいですが、それでも平成21年度の実績には及ばない。
		ゴルフ場(支配 人)	単価の動き	・一時の低迷からは良くなってはいるが、上昇の気配は感じられない。
		その他サービス [保険代理店] (経営者)	来客数の動き	・新規の顧客が増加せず、新規の需要も感じられない。
		設計事務所(所 長)	お客様の様子	・先月ぐらいから仕事の動きが出始めたが、仕事の内容が具体的になるまでには時間がかかっており、足踏み状態である。
		設計事務所(所 長)	お客様の様子	・継続物件の作業中で入金予定はスムーズに動き、安定している。
		設計事務所(職 員)	それ以外	・特に大きな変化は感じられない。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・相変わらず受注は厳しく、前年比で1割強割り込んでいる。受注残も減少してきており、売上にも少しずつ影響が出てきている。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・3か月前から動きは変わっていない。契約数からみても景気は横ばいである。ただし、悪くはないため、秋口にかけて良くなっていくと思う。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・近隣に食品スーパーがまた1店舗オープンし、チラシを見ていると当店より1割5分ぐらい安い。売上が非常に減少しているため厳しい。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・今年は秋の連休が飛び石だったため、連休の需要がかなり落ち込んだ。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	来客数の動き	・8月下旬から天候不順のため、エアコンが予定より大幅に低下した。また、来客数も少ない。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	来客数の動き	・私鉄が工事をしている関係で、4つある商店街のうち、我々の商店街が一番影響を受け、客の流れが全然なくなってしまっている。売上也減少している。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	来客数の動き	・8～9月にかけて、来客数が非常に少なくなっている。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	来客数の動き	・夏の祭りシーズンが終わり、来客数がかなり減少している。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	単価の動き	・個人消費である店頭の単価、来客数は共に伸びており、売上が良くなっている。一方、法人関係の外商部の売上は芳しくない。大きな物件がほとんどなくなってきてしまっている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が上がらない。ガソリンや食料品の値段が上がっていることが婦人服販売にとっては大きい。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・消費行動に鈍りがみられる時期での天候事件は大きい。ここ2～3日で急に11月上旬並みの肌寒さになったりと不安定な天候になっているが、その気温の変化が消費者の行動への背中を押すのではないかと考えられる。
		スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・今月に入って雨や気温の低下に伴い、来客数が減少している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・近隣のドラッグストアが店内改装をし、半分以上が食品になったため影響を受けている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・天候によって売上がかなり左右されている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・競合店の増加によって来客数が減少し、プレミアム商品やコンビニカフェの売上増だけでは好転が期待できない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・価格に敏感になっている客が増えているように感じる。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備は順調に入っているが、販売があまり芳しくない。前年の3割減となっている。
		乗用車販売店（販売担当）	単価の動き	・新車トラックについては4月以降、前年同月比10～15%伸びている。中古車に関しては仕入価格と小売価格のバランスが悪く、なかなか販売できていない。市場と全体の動向に食い違いがあり、市場においては景気が良いと感じるところがみえるが、個人の実質的な景気は下がってきている。
		住関連専門店（統括）	販売量の動き	・来客数も減ってはいるが、販売量が前年比と予定を含めて大分マイナスになっている。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	販売量の動き	・9月の国内市場は前年同月比約3割減の見通しである。前年に超大型タイトルがあったことを考慮しても落ち込みが激しい。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・来客数の動き自体はそれほど変わらないが、客から値下げの要望があり、また、安い商品ばかりが売れている。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・9月は夏休みが終わり利用が落ち込む時期ではあるが、レストランでは例年に比べランチ、ディナー共に客が減っている。原因としては消費税増税で落ち込んだ個人消費の回復が遅れていることや法人での利用減が考えられるが、婚礼や宴会も同様に景気回復にはほど遠い状況である。じわじわと景気が後退しているようである。
旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・我々の商売はどちらかといえば、ぜいたくなものになるため、スーパー等で買い控えるのと同様に旅行を控えてしまっており、来客が途絶えている。		
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内団体旅行の販売量が落ちてきた。間際での予約の動きもみられず、台風の影響も受けてしまっている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・個人旅行、個人消費がなかなか伸びない。国内旅行では宿泊、海外旅行ではロングが伸びていない。また、団体旅行も9月は極端に悪く、前年も下回るため、今月は非常に厳しい内容である。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・朝の早い時間帯と夕方は客の動きは良いものの、昼間と夜は非常に悪く、1日を通してやや悪くなっている。	
		タクシー（経営者）	来客数の動き	・前年比で5%ほど売上、乗客数共に減少している。週末は比較的下げ幅は少ないが、平日は特にひどい。	
		タクシー（団体役員）	来客数の動き	・前年比での数値は100%を確保しているが、タクシー利用客の減少が感じられる。	
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・デジタル多チャンネルサービスの解約数が増加している。	
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・世帯当たりの単価が減少傾向にある。携帯電話とセットになった通信サービスの割引によって減少傾向にあり、改善の傾向が見い出せていない。固定電話のみならず、携帯電話についても通信料の低下が顕著であり、利益率に影響している。	
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・以前に比べて夜のピークである7時半～8時ぐらいの客が減ってきている。時期を考えてもあまり良くない。また、ライバル店でもその時間帯の客が減っているため、全体的な傾向に感じる。	
		美容室（経営者）	お客様の様子	・8月の夏休みでお金を使い過ぎているため、9月は家計を引き締めているようである。	
		美容室（経営者）	来客数の動き	・来店サイクルが鈍っており、回復する気配が全然ない。	
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・受注量は数か月前から継続して減少傾向にあり、特にアパートなどの土地活用事業関連の落ち込みが大きい。	
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	お客様の様子	・資材の受注量が前年を下回っている。	
		悪くなっている	その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	販売量の動き	・客が量を買わなくなっている。
			一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・景気はかなり下向きになっている。8月が前年比20%マイナス、9月は30%のマイナスと徐々に悪くなっていくような気がする。
			タクシー運転手	来客数の動き	・深夜2時を過ぎると人の動きがなくなってしまう。
住宅販売会社（経営者）	来客数の動き		・当社は住宅を主に扱う不動産ディベロッパー業と総合建設業だが、住宅事業においては消費税増税後は客が全く来場せず、広告をいくら出しても反響がない。ここ2、30年の中で、これほど来客数が激減したことはない。総合建設業は建設費の高騰で採算が取りづらくなっているものの、公共工事については沢山ある。		
企業動向関連 (南関東)	良くなっている	—	—	—	
	やや良くなっている	食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・少しずつではあるが、定番商品を中心に動きが活発になってきている。	
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・印鑑やゴム印、名刺印刷の仕事をしている。企業の特需は割と多いが、今月は企業のトップの個人客から特注サイズの象牙で50万円ぐらいの実印が2本という特需があった。非常に珍しいケースであり、会社内容が良いからと話していた。また、会社関係の設立の印鑑が9本と、例年に比べて本数が多くなっている。	
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・各顧客は新企画の案件が立案されて実行に移るなど、仕事の流れは順調に推移しているように感じられるが、円安の影響で原材料や資材等の値上げ要請も激しくなり、なかなか利益が出ない。	
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先の主力である建機業界は自動車排出ガス規制に伴い、国内向けの需要増で忙しいため、目先の受注は多い。	
		建設業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・政権が変わり、急激に仕事量が増え続けてきている。訪問先の顧客から信頼の置ける企業は建設業にかかわらず受注が伸びてきていると聞いている。	
		金融業（支店長）	取引先の様子	・景気動向は必ずしも良くはないが、円安の進行で株価が上昇し、個人投資家の動きは活発化している。	
		不動産業（総務担当）	取引先の様子	・オフィスの空室率が改善しており、賃貸料もようやく下げ止まった感がある。景気的大幅な上向き感はないが、少しずつ良くなっていると実感している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業 [情報サービス] (従業員)	受注量や販売量の動き	・高速インターネット環境整備に関する受注件数については、先月ごろから若干ではあるが好調な状況が継続している。
	変わらない	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・あまり良くないところで落ち着いてしまった感がある。
		食料品製造業 (経営者)	取引先の様子	・納期が遅れたり、原材料が問屋になかったりと、各社が今までと違う商売の仕方をしている。
		繊維工業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・天候不順の影響で売上が伸びていない。気候の変動で一枚羽織るニット製品が動き出した感があるが、底堅い景況とは言い難い。
		出版・印刷・同関連産業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・リピート商品は材料代が値上がりしても商品に転嫁することができず、値上がり分は当社が負担しているため、ますます苦しくなる。また、新しいものも値段競争が激しく、なかなか仕事に結び付かない。
		出版・印刷・同関連産業 (経営者)	取引先の様子	・今月は7～8月に比べると多少は増加しているが、例年に比べるとかなり減少している。
		出版・印刷・同関連産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・前年比では低下傾向にある。
		出版・印刷・同関連産業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・原材料の価格上昇や受注減少など、印刷業界を取り巻く環境が良くない。
		出版・印刷・同関連産業 (所長)	受注量や販売量の動き	・先月同様、受注件数が大きく落ち込んでおり、前年の数字を大きく下回っている。
		プラスチック製品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・アベノミクスで景気が良くなっている割には、ほとんど変わらない。
		金属製品製造業 (経営者)	取引先の様子	・当社の本業である精密機械加工関係の仕事量が少なく、価格も下がり気味なのに電気料金や光熱費が上がっており、原材料も高めのため景気が悪く、合理化するための設備投資もできない状況である。
		一般機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・引き続き悪い状況が続いている。
		一般機械器具製造業 (経営者)	取引先の様子	・新しい受注の話がない。
		電気機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・世の中の流れは、バブルのように何をしてももうかるような時代ではない。人と同じことをしていたのでは利益が得られないが、何をしたら良いのかが分からない。
		その他製造業 [靴] (経営者)	取引先の様子	・受注量、受注価格等に大きな変化はない。同業で倒産の話は最近聞いていないし、横並びで進んでいるのではないだろうか。
		建設業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・商品が売れない。また、価格が下がっている。
		建設業 (経営者)	取引先の様子	・上向きの企業もあれば、変わらない、良くないという企業など様々である。年明けの受注が今のところ薄くなっているようである。
		建設業 (経理担当)	受注価格や販売価格の動き	・工事の引き合いは当社にとって大型案件の話が数多く来ている。体力的に手が出せない大きなもののため、当社の規模に合う工事案件を探す数少なく、予算も足りない。まだ地方の末端まで景気の波が届いていない。
		輸送業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・一進一退を繰り返しており、一概に上向きとは言えないため、変わらない。
		輸送業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・相変わらず荷動きは低調で、盛り上がり欠ける。一方、経費は増大し、顧客への価格転嫁も進んでいない。
		輸送業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・情報誌関係の配送業務が増えている。また、一般貨物は定期業務に大きな変化はないが、スポット業務が減少している。全体ではそれほど変わっていない。
	金融業 (統括)	取引先の様子	・客の資金ニーズが特に発生していないからである。	
	金融業 (支店長)	受注量や販売量の動き	・取引先の売上等をみると、2～3か月前とあまり変わらないが、ガソリンなどの費用や人件費等が上がっているため、まだ景気回復とは言えない。	
	金融業 (役員)	取引先の様子	・建設業を中心に活況を呈している業種もあるが、街中の景況感に大きな変化はない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・駅から徒歩4分の1LDK、4月完成の9戸はまだ1戸残っている。また、駅から徒歩4分の1K、29戸の別物件も4戸しか決まっていな。相変わらず苦戦している。
		広告代理店（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・行政の入札案件が増えてきているが、入札のためあまり利益増にはつながらない。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・景気が良いわけではないが、コンスタントに仕事を獲得できている。大手代理店は予算規模が大きいものに注力しているため、中小規模のものを当社で取れているからである。
		税理士	取引先の様子	・客で中古書籍や中古CDを販売している店がある。昔は大変売れていたが、現在は全然売れずに店が潰れそうである。景気が悪くなくても中古品は売れそうなものであるが、結構ひどい状況が続いている。アベノミクスはまだ中小企業までは全然来ていない。
		社会保険労務士	取引先の様子	・社会保険の加入が難しい会社と加入を考えている会社が見受けられる。
		税理士	取引先の様子	・円安で輸出関連の大手業者は潤っているものの、その反面、輸入品の値上がりは顕著である。しかし、消費意欲はそれほど衰えをみせていない。秋が早く来るとも秋冬の衣料品には良い材料である。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・駅前にあるベーカリーショップの店長の話では、原材料の仕入価格が高騰したため、やむを得ず一部商品の値上げを行い、影響が出ているということである。さらに天候が不順であることも響いており、パンは一般的に夏場の売上は落ちるが、9月に入ってから天候が定まらないせいか、元に戻らないと話している。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・中小製造業では、大手製造業の海外シフトの影響を受け、国内受注減が進んでいる。さらに人材の高齢化と若者採用難が追い討ちをかけ、企業の存続の危機を増加させている。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	取引先の様子	・オリンピック景気と言えらかどうかははっきりしないが、警備業界全体が人材不足で、そのあおりで単価が上がっている。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・スポット的な契約はあるが、新規、継続の契約や解約、減額はなく、大きく変わる要素はない。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・特に減速や増加もみられず、前年並みである。
		やや悪くなっている		電気機械器具製造業（経営者）
建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き			・消費税増税の影響なのか、受注に対する進捗が遅く、思ったより復活幅が少ない。
輸送業（経営者）	それ以外			・新年度に入ってから6か月が過ぎたが、前期に比べ取扱量が減少したにもかかわらず、燃料費の高騰、人手不足等により経費が増加しており、大変厳しい環境下にある。
輸送業（総務担当）	取引先の様子			・荷主の国内出荷量は依然として計画を下回り、増える気配がない。輸出でカバーしているようである。
通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き			・前月よりは幾分改善しているが、7月以降、前年同期比でマイナスの傾向は継続している。
広告代理店（経営者）	取引先の様子			・上半期を終えるあたりから提案依頼や引き合いが急に落ち、それが現在も続き、暇な状態になってしまっている。
その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き			・受注量が減少傾向にある。取引先工場、特に、製造業系工場の稼働率が悪く、受注量も低迷している。
その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	それ以外			・受注量は変わらなくても輸送料や原材料が高騰しているため、良くない。
悪くなっている		精密機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注量は前月比4%増ではあるものの、値引き要請や運賃、燃料費、電気料金の値上がりが製造原価を押し上げ、営業利益がマイナスに転じている。
雇用関連	良く なっている	-	-	-

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
(南関東)	やや良くなっている	人材派遣会社(支店長)	求人数の動き	・派遣、紹介共に受注数は右肩上がりが増えてきている。各社で人材採用に対する温度が高まってきているのが感じられる。
		人材派遣会社(営業担当)	雇用形態の様子	・労働市場は活性化してきている。特に、正社員求人数の増加が見受けられ、人材が流動的になってきている。ただし、派遣市場は、正社員求人の増加に伴って派遣労働者が減少し、マッチングしにくくなり始めている。
		求人情報誌製作会社(営業担当)	周辺企業の様子	・求人数に関しては特記するほどの増加はみられなかったが、企業側の姿勢として秋、冬に向けて積極的な動きが予測される。
		職業安定所(職員)	求職者数の動き	・8月の新規求職者数が前年同月比で今年度最も減少幅が大きく、また、新規求職者のうち事業主都合の離職者も前年同月比で大幅に減少している。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数は前年同月比で26%増加している。介護関係を中心に増加しており、自社での採用が困難で派遣会社にも依頼しているようで、派遣会社からの求人も増加している。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・製造業、機械機器販売、建設業など、久しぶりに求人を出す会社も欠員補充ではなく、増員の求人を出すようになってきている。
		職業安定所(職員)	求職者数の動き	・新規求職者数は引き続き減少傾向にあり、会社都合での離職者数が前年度と比較して減少している。また、管内においては大量雇用変動等の動きもみられない。
変わらない		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・特に求人が増えている業種はない。
		人材派遣会社(社員)	それ以外	・周囲の消費動向に変化がみられない。
		求人情報誌製作会社(編集者)	採用者数の動き	・今年度の新卒採用は少し学生に有利に動いているのは確かであり、内定を5社持っているという学生もいた。しかし、それが即景気回復の証とも言いにくい。大手企業は回復傾向にあるが、中堅中小にはあまり実感がなく、採用増を打ち出している企業は少ない。
		求人情報誌製作会社(広報担当)	周辺企業の様子	・周辺企業で中途採用で人を採用したいが、なかなか良い人がおらず、この際、少し年齢が高くても仕方ないというような話を耳にする。今まで転職は35歳以上はタブーという感じだったが、仕事がきちんとできれば、多少年齢が上でも採用したいという話も聞く。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・4月以降、パートタイム求人だけではなく、フルタイム求人も順調に伸びていたが、ここに来て前年同月比でマイナスに転じている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数は前年同月比で増加傾向が続いているが、増加率が縮小している。増加率の高い産業は労働者派遣業と常に人手不足の状況にある医療、福祉であり、景気が上向いているとの判断材料が乏しい。
		民間職業紹介機関(経営者)	求人数の動き	・期待していたようには求人及び採用は安定しない。販売の増加及び安定性に不安があるため、慎重さがうかがえる。ただし、将来性ある人物には興味があるという状況である。
		民間職業紹介機関(職員)	求人数の動き	・求人数に大きな変化はなく、引き続き活況である。
		民間職業紹介機関(職員)	求人数の動き	・求人数は依然として高止まりである。
		学校[専修学校](就職担当)	求人数の動き	・新卒求人獲得数は前年同月比で微増の状態であり、大きな変化はみられない。
やや悪くなっている		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・一部の製造業で前年同時期よりも求人数が減少する状況となっている。また、3か月前に比べ、事務系の派遣求人数が減ってきている。
		新聞社[求人広告](担当者)	それ以外	・9月に入ってかなりの伸びがあった。倒産が2社、廃業が1社、新規獲得が49社と大口を含めて相当の数が入ったものの、売上としてはあまり芳しくない。例年と比較するとかなり縮小気味である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	—	—	—

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東海)	良く なっている	百貨店（経理担当）	来客数の動き	・消費税増税後の出控えや買い控えが一段落したところに天候の安定が重なり、客の購買意欲には高まりが感じられる。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・足元の客単価は落ちているが、2～3か月前に比べればやや良い。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減が収まりつつあり、買い控えの状況も前年並み程度となってきた。
		百貨店（経理担当）	来客数の動き	・残暑が厳しくないため秋物衣料品の動きが良い。宝石・時計等の高額商品についても消費税増税の影響が弱まっていると感じる。しかし、まだ不安定な状態にあることには変わらない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客は、価値を求める商品は多少高額でも購入するが、それ以外の買物では価格のみで判断しているように感じる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・ここ数か月、一般食品以外のすべての部門で売上高が前年を上回る状況が続いている。
		スーパー（店員）	単価の動き	・野菜価格が大雨の影響で上昇傾向にあった3か月前と比べてやや値段が下がってきたことは、消費者にとっては大きなプラス要因である。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・野菜類の価格高騰もあるが、売上高は伸びている。
		衣料品専門店 [紳士服洋品] (売場担当)	単価の動き	・紳士服売場では、スーツや肌着等の売上が好調に伸びているアイテムの単価が全体的に上がっている。特にスーツに関しては、販売単価が1万円近くも上がっている。
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・9月に入って客の動きが活発になってきている。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・車の販売については、半期決算に伴い月間目標台数をクリアする店舗も増えており、4月以降の月間販売台数で、初めて前年並みの販売台数を確保できている。
		住関連専門店 (営業担当)	販売量の動き	・公共工事が堅調であり、持ち家住宅についても受注物件が増え始めている。
		その他専門店 [貴金属]（営業担当）	来客数の動き	・消費税増税の影響で来客数、売上高ともに3か月前はかなり減少したが、最近では来客数の動きが良くなっている。また、増税分を気にする客が少なくなっている。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・3か月前の6月頃に比べて宿泊者数は上向きで、前年同期比でも10%程度の増加となっている。一方、地元客が需要層となる昼食・夕食については、横ばいからやや減少傾向にあるため、その分を相殺してやや良くなっているという状況である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・宿泊料金の設定が、連休等の特定日やトップシーズンでは消費税増税分以上の高価格に改定され始めている。しかし、通常料金の2倍の設定でも、すぐに満室になる状況である。懐に余裕のある家庭の増加を意味しているのかもしれない。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・設備増強に伴う工事の発注が増加傾向にある。
		ゴルフ場（企画担当）	来客数の動き	・6月以降、来客数が予算・前年実績をともに下回って低調であったが、今月は、予算・前年比ともにクリアが見込める。
		美顔美容室（経営者）	来客数の動き	・夏の日焼けや乾燥した肌が気になる客の来店が増えている。
		その他サービス [介護サービス]（職員）	それ以外	・介護職員の新規採用では、特に女性職員の採用が難しくなっている。他業種の景気が上向き、条件的に劣る介護職は魅力が乏しくなってきた。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・客からは購買意欲が感じられるものの、それが販売量の増加にはつながらない。販売単価は依然として低い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	単価の動き	・今月も引き続き客単価が下がっている。売上金額は前年同月比99.6%で推移しているが、製造個数は90.0%である。確実に消費税増税の影響が出ており、特に組合会合等の大口注文では、商品購買予算が税込み金額で変わらないで、本体価格は増税の分ダウンしている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・いろいろな商品の値上がり、消費を抑制している。
		一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	販売量の動き	・お中元商戦では前年と同水準で推移し、思ったほどの手ごたえはなかった。景況感が良いが、円安が原材料の価格にどこまで影響するか見通せない。
		一般小売店〔結納品〕（経営者）	販売量の動き	・地方の小売業では厳しい状況が続いており、販売量は全く上向いていない。
		一般小売店〔電気屋〕（経営者）	販売量の動き	・景気がそれほど良くなっているとは思えない。客の財布のひもが固く、セールを行った際も過去最低の売上高となっている。壊れない限り買換えない客と壊れる前に買換える客との温度差が顕著となっている。
		一般小売店〔薬局〕（経営者）	来客数の動き	・来客数はほとんど変わらないが、どちらかと言えば良くない。午前中は結構忙しいが午後になると来客数が大きく減り、売上高が伸びない。天候不順等の影響による買い控えがあるように感じる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・台風の影響がある。前年からの遷宮の効果も終わり、客の動きは落ち着きを取り戻している。
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・贈答品店ではあまり目に見えた変化はない。数字が伸びているかと言えば現状維持であるが、ネット販売等贈答品もあちらこちらで購入することができ、競合店も努力をしている中で客は入替わっており、平均すると結果は変わらないという状況である。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	お客様の様子	・飲食店への客足は依然として悪い。週の前半は特に悪く、来店客が1人もないという店も引き続きある。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	販売量の動き	・消費税率引上げ以降、売上高がなかなか上向かない。前年同月を下回る月も多い。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・今月上旬は観光地としては客の少ない静かな日が続いたが、中旬以降は持ち直している。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・9月は、例年よりも早く気温が低下したこともあり、秋物ファッションや寝具等のリビング用品の動きが顕著である。反面、戻りつつあった時計・宝飾品等の高額商品の販売量は前年同期を下回る等、マイナスの動きも見せている。
		百貨店（販売担当）	販売量の動き	・夏のセールでは価格の安い商品は動いたが、価格が上がると動きが悪くなり、財布のひもが固いという印象である。
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・残暑のない秋らしい気温や天候に恵まれていることもあり、秋物の婦人衣料が好調であるものの、景気が上向きの時には伸びていたリビング用品や紳士衣料品は不振である。消費税増税と物価の上昇が、消費者の購買に対する慎重な姿勢の原因となっている。
		百貨店（経営企画担当）	お客様の様子	・客にとって付加価値の高い商品には敏感に食指が動くが、セール品等の動きは鈍く、プラス面とマイナス面が極端に現れる状況である。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・景気は消費税増税の反動減から回復しつつあったが、8月に前年並みにまで回復してから、今月になってそれ以上には上向いていない印象がある。客の購入率が上がらず、買上げ客数が増えない状況が続いている。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・中小小売店としては、客先は良いところと悪いところに分かれ、平均すれば客の動向は横ばいである。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・例年9月は消費がそれほど伸びないが、スーパー、コンビニでは新商品を次々に出して売上を伸ばす努力をしている。衣料品や雑貨等も、秋物商品が伸びず早めの秋物バーゲンを行っているが、実績はなかなか上がらない。家計の所得が伸びず、物価が上がって公共料金等の支出が増えるため、自分の購入したい物はITも活用して割安に探したり、家族レジャーでも安価なところを見つけてあまり費用をかけずに出かけている。世間一般には、景気が良くなっているという実感はまだまだ出ていない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客は価格に最も注目する点に変わりはないが、購買理由としては安さだけでなく商品価値を確かめる方向へと少しずつ移っている。売上金額としては、大きな変化はない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来店客数は前年比97%前後で推移している。客単価は105%で前年同期を上回ってはいるが、消費税増税後の商品値上げや相場高等による見せかけの増加である。
		スーパー（販売促進担当）	販売量の動き	・販売量は前年比87%で推移している。来客数は、特に食品が前年比88%と衣料品や住居関連商品よりも不振が続いている。
		スーパー（営業企画）	単価の動き	・客単価は前年同期を上回り、来客数の伸びはやや緩やかとなり、結果的には売上微増という状況が続いている。消費税増税後も7月頃から消費者の購買行動は安定してきており、節約する物と金をかける物を区別しているように感じる。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・来客数が少しも増えず、販売量は変わらない。
		コンビニ（企画担当）	単価の動き	・客単価が前年並みの水準に戻ってきている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・客単価が前年比で2%のマイナス、来客数は前年比で3%改善しており、売上高は前年比で1.5%のプラスとなるものの、大きな改善には至っていない。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・店舗売上高は前年同期を下回っており、その状況からは変化していない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・季節を先取りした購買がほとんどなくなり、常連客ですら実需買いになっている。来客数は天候により大きく左右される。
		衣料品専門店（販売企画担当）	来客数の動き	・客足が前月に落ち込んでから、伸びない。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年並みの売上高であるが、その中では、新型機種が発売されたスマートフォンがよく売れている。また、プリンターやデジタルカメラの動きも良い。
		家電量販店（店員）	単価の動き	・昨今の急激な円相場の動きに警戒心が出ている。仕入れ先との価格交渉でも、先行きは上昇するという基調が強い。客は、より安価な商品を購入しようという生活防衛に走る方向である。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・客との会話の中では、景気が良くなっている実感があまりないという話をよく聞く。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ほとんど変わりはないが、消費税率引上げの影響がようやくなくなってきたので、販売台数はやや良くなりつつある。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月は決算月であるが、思うように受注は伸びず非常に厳しい状況となっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・あまり良くない状況が続く、今月もその状況から良くも悪くもなっていない。これまでとレベル感はあまり変わっていない。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	お客様の様子	・客の様子では、自分の欲しい物や必要な物については、単価や細かいところにまで注意を払っている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	販売量の動き	・売上高は前年比で1.7%のプラス、来客数は前年と比べて10.5%のプラスとなっている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（営業担当）	販売量の動き	・セール商品しか買わない客が多く、財布のひもが固い。
		高級レストラン（役員）	来客数の動き	・来客数、客単価は前年同月並みで推移している。予約客数の状況にも変化はない。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	単価の動き	・大手企業の業績が好調という報道ばかりを目にする、中小企業ではそれほど好調とは言えない。
		観光型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・夏期は休止していた宿泊団体と日帰り団体向けのシリーズ商品を再開し、非常に好評となっている。団体向け商品は縮小傾向であるが、現シリーズでも特に日帰り団体向けについては、当初予定よりも利用人数が大幅に増えている。事業全体としての売上確保にも貢献している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		都市型ホテル (支配人)	来客数の動き	・宿泊部門では堅調な客室稼働状況となっている。しかし、宿泊単価を上げると極端に予約が集まらなくなる。一方で、宴会やレストラン等飲食部門は低迷している。	
		旅行代理店(経 営者)	販売量の動き	・中国地方等での大規模水害や火山の噴火等があり、旅行業界にとっては逆風に感じる。	
		旅行代理店(経 営者)	お客様の様子	・消費税増税の影響や野菜等の価格高騰で消費者の財布のひもは固い。そのため、個人客の旅行需要の伸びが依然として鈍い。	
		旅行代理店(経 営者)	お客様の様子	・景気が良くなっているような報道で一見ムードは高まっているが、当地域でも業績が良いのは大企業だけで、大部分の中小企業ではまだ良くなっていない。地元の空港でも国内線は減便しており、空港会社は黒字であっても、テナントや旅行者は利益確保が難しくなっている。	
		旅行代理店(経 営者)	お客様の様子	・早くも年末年始商品の問い合わせ等が多数あって忙しいように見えるが、前年の今頃と同様、まだまだ景気が良くなっているという実感はない。旅行需要がおう盛な客層は、未婚女性又は団塊の世代を含む60代後半～70代で要介護者のいない家庭である。	
		旅行代理店(従 業員)	来客数の動き	・今月は天候に恵まれ大幅なツアー中止もなく順調である。ただし、単価の高い旅行商品は売れない状況である。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月も夜の乗車客はやや少ないが、連休や日柄の良い日曜日等は結婚式が大変多く、そういう日の昼間利用も割と良くなっている。月末には都心部で地下鉄が一時ストップした影響で乗車客が急増し、1日でかなりの売上を上げている。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・夜の飲食店街には相変わらず人出が少なく、この状況が長い間続いている。飲食店の店主等に話を聞いても、暇であるという声が多い。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・午前中のタクシー利用は相変わらず安定しているが、午後から夜にかけての客足が悪い。	
		通信会社(企画 担当)	販売量の動き	・新規加入者の件数は引き続き低迷している。スマートフォンの普及と光インターネットサービスの高価格化が、新規利用の拡大に歯止めをかけているように感じる。	
		通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・一般利用者に対する景気は引き続き良くないが、人材派遣会社関連の受注が増えており、総合的には変わらない。	
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・3か月前と同様に入込客は、低調な状況が続いている。	
		その他レジャー 施設[劇場] (職員)	来客数の動き	・例年に比べて連休中の来客数が少ない。	
		設計事務所(職 員)	お客様の様子	・周りの状況や客からも、景気が良くなるような話は見聞きしない。	
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注量は相変わらず横ばい状態である。	
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・リフォーム工数の件数が増えてきているが、単価についてはシビアである。	
		やや悪く なっている	商店街(代表 者)	販売量の動き	・前月は比較的良かったが、今月に入って売上の動きが再び悪化し、結局3か月前と同水準にまで下がっている。特に中旬以降は、店の電話がさっぱり鳴らないような状況である。
			商店街(代表 者)	販売量の動き	・客単価は当然のように低いですが、今月は特に来客数が少なく販売量の確保につながらない。
			一般小売店[生 花](経営者)	お客様の様子	・どうしても必要な物には金を使うが、余分な物やぜいたく品に対しては財布のひもがかなり固い。余裕のある人とそうでない人の差があるように感じる。
	一般小売店[食 品](経営者)		販売量の動き	・円安が続いて輸入原材料の価格は大幅に上昇している。バターやチーズの仕入れには割り当てがあり予定数の製造ができず、予定した売上高には未達の状態である。	
百貨店(売場主 任)	お客様の様子		・来客数は減少傾向というほどではないが、客の様子を見ると、靴を試履きしても買わない客や商品説明をしても話だけ聞いて帰る客が多い。接客時間は長い購入に至る客が少なく、今月の売上状況は厳しい。		
百貨店(販売促 進担当)	来客数の動き		・海外の地域紛争のニュースや国内でも明るい話題がなく、ムードが悪い。食品や高額品の動きも鈍い。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		百貨店（販売担当）	競争相手の様子	・台風等の大きなマイナス要因がなかったにもかかわらず、連休中も終始盛り上がり欠ける印象である。自社だけでなくどこも全体的に集客が伸びていない。また、販促イベントを行っても、来店はしても買上げにつながらないケースが目立つ。	
		スーパー（店員）	来客数の動き	・来客数が減少しているとともに、購入単価も少し下がっている状況である。	
		スーパー（商品開発担当）	販売量の動き	・7～8月に販売量が伸びなかったのは気温や台風の影響と見ていたが、比較的天候に恵まれた9月に入っても回復せず、大型スーパー部門では特に苦戦している。食品スーパー部門も厳しいが、まだ前年比で良い数字が残せている。	
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・売上高、来客数ともに、前年同期比2～3%のマイナスとなっている。景気は悪くなりつつあると感じている。	
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月は晴天は続いているが例年ほど残暑が厳しくなく、飲料やアイスクリームの売上高が前年を大きく下回っている。	
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電商品の販売量が徐々に下がってきている。特に冷蔵庫とテレビは顕著に下がっている。	
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・例年の9月に比べて販売量の動きが悪い。全く売れない状況というわけではないが、売行きに勢いがなく全体的に元気がない。最近では良くなってきた気がするのですが、一時的かもしれないとも言えない。	
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販促イベントを開催しても、なかなか人が集まらない。小型車やワンボックスミニバンのハイブリッド車種はまずまずの実績を残しているが、他のハイブリッド車種が期待するほど伸びない。新型車両投入の効果が、なかなか目に見えては現れない。	
		乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・例年に比べ9月としては来客数がかかなり少ない。	
		通信会社（サービス担当）	お客様の様子	・客からの入電数は増えているが、新規注文よりも固定電話解約に関する案件が増えている。	
		観光名所（案内係）	来客数の動き	・当地を訪れる観光客がかかなり減っている。	
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・今年はあまり残暑が厳しくなく、客があまり来ない。	
		美容室（経営者）	来客数の動き	・前年同期に比べて来客数が約1割減っており、やや悪くなっている。	
		美容室（経営者）	それ以外	・消費税率引上げ以降、客足が遠のいていると感じる。	
		美容室（経営者）	それ以外	・今月はもう少し忙しくなると思っていたが、雨が多かったため外出を控える高齢者のキャンセルがたくさんあり、売上高はあまり良くない。	
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	競争相手の様子	・競争相手が市場シェア獲得のために介護保険適用外で安価なレンタルサービスの提供を始め、その影響で受注が減少している。	
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・来場者数が減ってきている。この先の消費税率引上げを見据えた駆け込み需要も、来場者の明らかな増加にはまだ結び付いておらず、駆け込み需要が見込まれる年明けまでは、今の調子が続きそうである。	
		悪くなっている	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が減っている。
			パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きや単価の動きが悪い。
			理容室（経営者）	お客様の様子	・常連客の来店サイクルが遅くなっている。また、近隣に安価な店ができた模様である。
住宅販売会社（経営者）	競争相手の様子		・広告を出しても客がなかなか来ない。		
その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	お客様の様子		・景気回復が思うように進まない中、材料価格はどんどん値上がりして利益を圧迫している。景気が良くなっているという実感はない。		
企業動向関連（東海）	良くなっている	—	—	—	
	やや良くなっている	食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・夏商戦は近年にない苦戦が続いた。天候の要因はあるものの、消費税増税の影響がボディブローのように徐々に効いているように感じる。一方で、プレミアム感のある商品に対する需要は根強く、今後にも期待が持てる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・1ドルが95円を切るような円高時には価格面で米国製に負けていた製品が、現在は円安になって優位に立ち、受注量が2倍以上に伸びている。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売量が増加している。販売価格は上げられず、コストの上昇が利益を圧迫している。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・自動車産業においては、大手企業では生産量も若干増加し、景況感も良くなっている。自動車関連の中小企業では、企業によっては生産量が多少は増えても利幅が取れず、景気という意味では良くも悪くもない雰囲気であるが、業界トータルで見れば若干良くなっていると感じる。
		金融業（企画担当）	取引先の様子	・株高、円安によって個人資産が大きくなり、その恩恵を受けている人が増加分を消費に充てている。また、個人所有の不動産の動きも活性化している。ただし、資産効果の恩恵を受けていない人の消費は拡大していないため、状況は二極化をしている。
		企業広告制作業（経営者）	それ以外	・アベノミクスの効果に対する検証が行われていない現時点では、期待感だけはまだ残っている。
		会計事務所（社会保険労務士）	取引先の様子	・売上高、利益ともに増加している顧問先が多い。設備投資を行うところも増えている。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	受注量や販売量の動き	・製造業の客からは追加案件等の打診があり、状況は良くなってきている。小売業等に関しては、良い話はあまり聞かない。
	変わらない	化学工業（人事担当）	受注量や販売量の動き	・物価が上がっており、一方で給与については目に見えて上がったというような変化はなく、物を買える量が減っている。
		化学工業（総務秘書）	取引先の様子	・多忙が続き、仕事には困っていない、又は仕事をとるために無理な値引きはしない、という傾向である。しかし、景気がどんどん良くなっているかと言えばそれほどもなく、横ばいが続いているという印象である。
		鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・産業機械等の受注量は増えているものの、建築需要や自動車関連の施設・設備投資は、当地域では全く増えていない。特に自動車産業の設備は、投資先が東北や九州方面に向いているようである。
		金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量は確実に増えており、忙しくなると思うが、人手不足や材料値上げ、外注依存の増加等により、利益につながるかは心配である。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・この時期は年末商戦に向けての準備が進んでいるが、前年と比べても落ち込みはなく順調である。海外での販売が安定しているため、前年並みの売上高を見込んでいる。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・この2～3か月は、受注量が前年を下回る状況で横ばいとなっている。売上高も今一つの状態である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・消費税増税の影響から抜け出せていない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・トータルで現状維持となっているのは、ごく一部の輸出企業からの受注のおかげである。また、販売単価については、現状維持が精一杯で引上げは難しい。
輸送用機械器具製造業（品質管理担当）		取引先の様子	・客先の生産計画の内容から、現状には変化はない。	
輸送用機械器具製造業（総務経理担当）		受注量や販売量の動き	・6～7月とほぼ同じで、海外で生産される車向けの部品がまだ好調であるため、今月の状況も変わらない。	
建設業（営業担当）		受注量や販売量の動き	・物販関係の客先で、発注予算確保の見通しが立ってきている。現状から変わりはないが、若干は景気としても良くなっているように感じる。	
輸送業（経営者）		受注価格や販売価格の動き	・メーカー系の客の荷動きが低迷を続ける中、人手不足や軽油価格の高止まりも解消されず、賃料の引上げも一部でしか認めてもらえない状況である。	
輸送業（従業員）		受注量や販売量の動き	・今月も日用雑貨の荷動きが低調で、輸送物量は前年度を数%下回っている状況である。ガソリン価格が高止まりで、週末の自動車利用を自粛しホームセンターでの買物等が減っているように感じる。	
輸送業（エリア担当）		受注量や販売量の動き	・貨物量の増減はなく、引き続き一定である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・6月以降、日々の荷物の動きは前年同期とほぼ変わらない。それほど景気は上向いておらず荷物は増えている。
		通信会社（法人営業担当）	それ以外	・円安、株高の状況で、一部の大手企業では好況感があっても大半の中小企業では余裕のない状況は変わらない。間近には消費税率の引上げが控えており、事業者は更なる設備投資等を考慮できる状況ではない。
		金融業（法人営業担当）	取引先の様子	・自動車部品メーカーの受注は微増しているが、原材料価格の上昇を販売単価では吸収できない状況にある。
		不動産業（経営者）	取引先の様子	・アベノミクスの効果は、経済の実態には波及していない。売買件数、価格ともに底打ち感がある。
		不動産業（用地仕入）	競争相手の様子	・競争相手の様子を見ても、マンション販売価格等には大きな変化がない。
		不動産業（管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・親会社からの受注量が減っている。一方、雇用の面では他の業種での求人が活発となっている影響で人材を募集しても集まらない。それらを合わせ見れば、世の中全体の景気としては、変わらないように見える。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・取引先からの広告の出稿量にはほとんど変化はなく、営業関係の数字としては微減となっている。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・以前ならば新築住宅に入居があれば、ほとんどの世帯から新聞購読契約を獲得できたが、今では5割以下という状態である。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・地価の水準が弱含みになりかけている。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・当社では相変わらず繁忙が続いているが、他社はそれほど忙しいという状況ではない。大きく円安に振れているが、あまり行き過ぎると問題が出てくる。
やや悪くなっている		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・天候不順、円安の進行や原材料の値上げがあり、一方で販売価格への転嫁も難しく、受注量、販売量とも伸び悩んでいる。
		一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・4月から高水準で中国企業向けの受注が続いていたが、8月以降は受注量が落ち着いてきている。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・前年比でみると放送、通信関連の受注量、売上高は増えているが、利益面では横ばいという状態が今年になって変わらない。こういった傾向が続くと、景気は悪い状況にあるのではないかと感じる。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型スマートフォンの特需も終わり、自動車業界だけは多少良いが全体的には減少傾向である。次に柱となる商品の目安がない状況では厳しい。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・荷物の動きは活発化してきているが、変化はまだそこまでとどまっている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・主要荷主等の荷動きが、前年同期比でマイナス3.0%と悪くなってきている。
		公認会計士	それ以外	・円安による原材料や燃料価格の高騰が大きく影響し、販売価格に転嫁ができない中小企業の業績は悪化している。消費税増税前の駆け込み需要の反動で消費は低迷している。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・身近な中小企業者には輸入業者が圧倒的に多く、自社で輸出を行っている業者は数少ない。昨今の円安状況は輸入業者には大変厳しい。また、消費税増税に加えて物価上昇が生活に重くのしかかってくるので、消費者は財布のひもを固くせざるを得ない。
悪くなっている	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・土地代や建築費の高騰により、マンション、建売住宅の販売価格を上げざるを得ない状況にあるが、消費者の反応としては、少しでも価格設定を高くすると目に見えて需要が冷え込む傾向が顕著である。	
雇用関連 (東海)	良く なっている	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・取引先でのシステム開発が活況になりつつあり、派遣要請や外部委託の引き合いが増えている。
	やや良く なっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・求人数は3か月前と比べて120%、前年比でも130%と増加傾向にある。また、業績悪化等による企業側からの契約終了件数は、3か月前比、前年比ともに70%弱となっていることから、堅調な採用意欲が伺える。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・医療、介護分野及び建設関連や小売業関係では、相変わらず人手不足感が続いている。求人募集における採用意欲は全産業で見られるものの自動車等の製造業には一服感がある。電子部品や電気通信機械の分野においても、正社員よりもパートタイマー等の一時的な募集が多くなっている。
	変わらない	人材派遣会社（経営企画）	周辺企業の様子	・人材派遣需要は堅調で、大きな変化はない。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・有能な人材は複数の求人企業から内定をもらっている。各企業は有能な人材であれば積極的に採用している。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・パート、アルバイトや派遣人材の求人は増加傾向にあるが、正社員の求人増加にまでは拡大していない。
		職業安定所（所長）	周辺企業の様子	・地元の中小企業の様子では、円安が急激に進んで原料高となる一方で、価格転嫁ができず収益が上らないところが多い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月及び前月・前々月と比べて若干減少している。また、新規求職者も減少している。景気の動向が読みづらい状況なので転職に慎重になり、軽い気持ちでの離職や転職が減っているためと思われる。また、8月の天候不順の影響が、食品関係には現れている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前年同月比で増加しているが、求職者も増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前月より22.6%減少し、前年同月比でも8%の減少となっている。求人意欲は、横ばい若しくはやや低下という感じである。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は3か月前より7.0%減少しているが、依然として人手不足感が強い建設業、介護・看護関係の求人は活発である。
		民間職業紹介機関（営業担当）	採用者数の動き	・求人企業の採用活動は順調に進展しているものの、採用決定者数が更に伸びるような根拠が見当たらず、踊場という感が否めない。
		民間職業紹介機関（営業担当）	周辺企業の様子	・前月と比較しても大きな変化は見受けられず、求人数の動きや企業動向ともに停滞感がある。
		その他雇用〔広告代理店〕（求人広告担当）	周辺企業の様子	・求人広告を出す企業数は、あまり変わっていない。特定の企業が定期的に出していると感じる。
		やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き
	アウトソーシング企業（エリア担当）		採用者数の動き	・自動車生産に関して一部メーカーでは生産調整を行っており、それに伴い採用者数も調整中となっている。
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）		雇用形態の様子	・正社員としての雇用は一向に増えず、非正規での募集ばかりが目立つ。また、企業は採用にかかる費用を抑えており、安い求人媒体のみが目立っている。
	悪くなっている	—	—	—

6. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	通信会社（営業担当）	乗客数の動き	・スマートフォンの新機種が発売により、興味のある客の来店が増え、販売も増加している。また、買い控えていた客が購入に踏み切る様子が多く見受けられた。
(北陸)	やや良くなっている	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・今までと違うもっとも顕著な例としては、絵画などの美術品の動きがようやく活発化してきた。一つの景気のパロメーターとなると、不要不急のものという必需品の対極にある商材である。このようなちょっとした高額品が、今動いてきているというのが、少し明るい気がしている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・北陸新幹線の開通に向けて、改装などリニューアルオープンしたショップが好調に推移しており、前年を上回っている。リニューアルしたショップの周りも、影響を受け好調に推移している。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・9月は残暑が少なく気温が下がったため、秋物衣料などの季節商材の販売が伸びた。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
変わらない		家電量販店（店長）	単価の動き	・前年より来客数は減っているが、省エネの意識は高く、商品単価が上がっている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕	お客様の様子	・ようやく野菜相場高も落ち着き、新製品、スイーツ、旬もの提案など企画に対し購買反応も良く、食品中心に消費税増税の反動による影響がおさまった感じである。衣料、住まいの品も、前年より早く秋めいたおかげで秋物売上が上がってきた。店頭買上客数も回復傾向で、増税後は売上が毎月とも前年比で5%程度落ち込んでいたが、9月に入り2%台の落ち込みに留まった。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・法人接待や会合は相変わらず減少傾向にあるが、個人客の利用が伸びている。和食部門も悪くないが、特にステーキ部門は客単価が上がっていることもあり、売上は前年比120%で推移している。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・申込数が大幅に増えている。新サービスのエリア拡大やプロモーションが奏功していると考えられる。客の購買意欲も増してきているように感じる。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・消費税率が10%へ引上げとなる可能性もあり、土地や建物の購入を具体的に検討している人が増えている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・朝夕の温度差が、例年より大きいため、いつもより早くアウターなどの秋冬商材が出ているが、薄手の初秋物の買上が少ない。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・8月のように天候に左右されることはなかったが、売出など、めりはりのある来客数があったと思う。何もなかった時は来客数も少なかった。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	お客様の様子	・一部の取引先は、以前にも増して忙しくなっている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・天候に左右されているところが若干あるが、客層によって変化がでてきている。30～40代の高額所得者の購買意欲は高まっているが、50～60代の標準的顧客の消費に対する価値観が変化してめりはり型になっており、使う総額は変わらないが、機能のいいものや自分の価値観に合うものは高くても購入するようになってきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・客の買物状況をみても、販売量が増加していない状況である。特売セール品の品であっても、以前よりも点数的にも変わっていないのが現状である。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・一部商品の値上げが続き1点単価が上がっている中、販売量は前年並みの状況が続いている。
		コンビニ（店長）	それ以外	・コンビニ業界でここまで出店が増えると、競合店が近くにできなくてもほぼ全店で前年割れしている。県内のチェーンの平均前年割れ率は4%程度なのに対し、2～3%しか前年割れしていないことから、変わらないと回答した。チェーン平均以上に競合店ができている店舗なども併せてのチェーン平均なので、競合店が出店していない当店で考えた場合、変わらないが妥当である。
		コンビニ（店舗管理）	販売量の動き	・増税後、缶ビール類の売上が前年を大きく割れて推移している。価格の安いドラッグストア等へ流れていると予想する。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・8月は長雨に泣き9月は好天で一息ついた。しかし、今に始まったことではないが、最低価格に集中している。財布のひもの固さは並大抵ではない。当店の店員に客の話ぶりを報告させているが、良い話はないと言っている。
衣料品専門店（総括）	販売量の動き	・気温の低下に伴い、男性向け商材の売上は回復傾向にあるが、女性向けは回復の兆しが見えない。		
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・受注量がここ3か月くらいは低調で、前年を下回る状況が続いている。今月も同様で、なかなか良い兆しが見えない。		
乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・9月の販売量は前年同月比90%である。今年6月の販売量は前年同月比85%と、3か月前との比較ではやや上向きだが、消費需要の回復はまだ鈍いと感じられる。		
住関連専門店（店員）	来客数の動き	・耐久消費財は例年、9月を境に動きが活発になってくるが、3か月前と比較しても、売上から割り出す歩留り等に関してはさほど伸びが見られない。来客数も大きな改善傾向にはない。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店〔酒〕(経営者)	来客数の動き	・来店する客が大変少なかった。しかし、様々な行事があったことから、売上はなんとかカバーできて、プラスマイナスゼロといったところである。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	販売量の動き	・消費税増税後の来客数減少は落ち着き、来客数はここに来て前年程度までに回復している。ただし、消費者の財布のひもは固く、販売量は前年と比べるとまだ低い。特に衣料品、宝飾品や靴鞆などの服装品の苦戦が続く。
		観光型旅館(経営者)	販売量の動き	・9月は大型団体の取入れがあり、前年より約2千万円の売上増が見込める。
		都市型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・部門別の売上をみると、宿泊部門では円安で外国人旅行者が増え、売上も増加している。レストランは前年並み、宴会は大型宴会が減少し前年割れである。この傾向は当面続くと考えている。
		都市型ホテル(役員)	販売量の動き	・9月は宴会の特需があるが、全体としては景気動向は変わらない。
		旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・夏商戦も終わり、消費税増税前の契約分も終了した。秋から冬へ向けての出足が前年同期比と比較すると悪い。客の財布のひもが締まってきている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は当地の場合、市議会議員補欠選挙、県議会補欠選挙、市長選挙があり、トリプル選挙となる関係で夜の街は人出が少ない状態になり、あまり良くない。
		通信会社(役員)	販売量の動き	・5月より開始した高速通信サービスの利用者は着実に増加しているが、一方で大手通信事業者との競合も厳しさを増しており、全体で見れば契約数はほぼ横ばいで推移している。
		住宅販売会社(従業員)	来客数の動き	・来客数は8月に底を打ったと思われる。9月に入り徐々に回復の兆しがみられるが、このまま推移するかは不透明である。家計の収入もアベノミクスの恩恵はないように思われる。実際、今年に入ってから客のやり取りからも懐が豊かになったという印象はない。
		住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・消費税増税の駆け込みがあった前年と違い、契約件数は例年の2割程度少ない。
		住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・周りの状況から見ると決して景気は好転していないが、消費税率アップも見込まれる中、展示会などの来客数は多い。また、9月の受注状況も好調であった。ほかに大きな要因も考えられないので税率変更後はかなり厳しいと思われ、先食い感が強い。
	やや悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・アベノミクスに対する期待が最近薄らいでいる。消費税増税や、夏場の天候不順で小売業が主である当商店街では、売上の力強さがなくなってきている。客も必要なものしか買わないようになってきている。
		一般小売店〔書籍〕(従業員)	販売量の動き	・客は、まとめ買いなども少なく、商品を厳選し必要なものだけ購入している。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・販売員の接客スキルにも問題があると思うが、当店のクラブカードのダブルポイント期間の販売に依存しすぎて、優待以外の集客、売上が大変落ち込んでいる状況である。
		スーパー(統括)	来客数の動き	・3か月前からということだが、今年の今頃から底打ち感がみえて、来客数は徐々に伸びてきた。4月には消費税増税の影響で若干下がったが、3か月前も順調に伸びている中で、9月中旬以降天候と気温の関係などもあり、多少上げどまりになってきているという状況である。
		コンビニ(経営者)	来客数の動き	・客単価は前年同月比100%ぐらいで推移しているが、客数の落ち込みが大きい。また、たばこの売上が値上げ以降戻ってきておらず、大きく落ち込んでいる。コーヒーなどは調子が良いが、来客数増までにはなかなか結びついていない。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・8月末に、また近隣に競合店がオープンして、ついに業界3大チェーンが競い合う形になった。予想していたよりも健闘はしているが、悪くなっていることは間違いない。
		衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・消費税増税による商品の実質的な値上がり円安による物価高は、実質賃金を押し下げているので、客は消費に対してますます慎重にならざるを得ない。
		衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・婦人衣料について売上の前年割れが続いており、好転する兆しが全くない。先行きは不透明である。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・新車、中古車ともに、売上が落ち込んできている。週末の来客数も少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・消費税増税の影響が継続しているのか、業界全体で売上が登録車で前年比10%程度の減少、軽自動車では同30%ほどの減少となっている。当社においても新車販売では20%ほど前年を下回っている。車検、钣金での売上も前年より減少しており、大変厳しい状況である。	
		自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・9月は半期決算月で、例年以上の販促を投下したが、依然来客数の回復には至っておらず、単価は若干の向上が見られるが売上の前年には届かない状況である。客からも厳しい声が寄せられる。	
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・特に平日の客足が悪い。	
		一般レストラン（統括）	競争相手の様子	・外食各社において、食肉関係、生鮮野菜の仕入価格が高騰中であるが、メニュー売価に転嫁ができず、利益が圧迫されている状況が進んでいる。	
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上88.2%、宿泊人数85.6%、宿泊単価107.7%であった。当月の伸びは前年の50%と低迷している。前年は募集団体の催行率が高かったが、今年は消費税の影響、高速道路通行料の割引縮小、ガソリン等の燃料の高騰、台風の影響が出ている。	
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・期待していた個人客が、全く戻ってきていない。近場のイベントには大勢人が集まっているが、売上アップにはつながっていない。	
		タクシー運転手 その他レジャー施設（職員）	販売量の動き お客様の様子	・週末の、繁華街からの客の利用が少ない。 ・退会者数が増え、入会者数を上回った。	
		美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年の水準に届かない。当業界全体が同じ傾向である。	
		悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・前年は残暑が厳しく秋冬物の動きが悪かったため、前年と比べて売上が良い店は多いのだが、勢いが全くない。消費税増税で外税表示の店が多くなり、レジで予想以上の金額に驚くといった客がここに来て目につくようになってきた。
			スナック（経営者）	来客数の動き	・月末になりやっと動きがあったが、悪かった8月よりも更に若干マイナスとなった。一部の経営者やタクシーの運転手も、お盆以降悪いとささやいており、最悪の状態である。
テーマパーク（職員）	来客数の動き		・前年同月比で、9月は10%を超える利用者減となっている。内訳をみると国内の一般団体や、インバウンド客の落ち込みが大きくなっている。団体については、国内企業の法人利用を含め、ここに来て極端に予約が落ち込んできている。インバウンドもバスの値上がりなどがあり、当地域では全体的に団体での利用が落ち込んでいるように思われる。		
企業動向関連 (北陸)	良くなっている	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・8月は季節要因で受注量が落ちたが、9月に入り欧米、国内とも受注が回復している。	
	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注に安定感が増し、前年同月比も数量がアップしている。	
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工事の見積依頼が依然多いが、受注能力いっぱいを受注量を抱え、身動きができない状態がしばらく続いている。	
	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在の受注状況からみると、低位安定をしているところである。	
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注状況は横ばいである。	
		精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後、百貨店等一部のルートを除いた地方の一般店などで、特に高価格帯商品の販売量は意外と回復に時間がかかっている状況である。	
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・官庁工事の受注は、受注量、受注価格とも先月と同様に順調である。	
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・円安による、原材料のコストが価格に反映され、消費が落ち込んでいるように感じられる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・欲しいものは少し高くても購入するが、普通の商品は相変わらず少しでも安くというマインドに変化はなく、引き続き個人消費が今一つ停滞している様子で、売上が増加していかない。また、仕入コストや運送コストなどの上昇圧力は高まってきているが、それを転嫁できる情勢にまだなってきたおらず、なかなか良い状況にはない。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・百貨店の売上などで前年比での伸び悩みが出るなど、消費関連が一服している一方で、設備投資などで前向きな姿勢も見られ、きつ抗している。
	やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・9月から規格変更を主とした実質値上げを実施した。その影響もあってか10%程度の販売量の減少が見られる。また、販売品目の構成の変化が見受けられる。高付加価値商材の販売量が減少し、100円均一などの低価格商材の販売量が前年同水準あるいは前年比微増という状況である。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・消費税率引上げの影響が6月までは出ていたが、7月以降なくなり、3か月前と比べると売上が落ちてきている。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・6月以降、売上が前年比で減少となる状況が4か月続いている。
		司法書士	取引先の様子	・会社の解散、全役員の辞任等、清算のための商業登記案件が多い。
		税理士（所長）	取引先の様子	・今は円安だが、客の製造業の生産設備の海外への移転があまり止まらない。ひとつは日本の電気代が高いのと、日本ですぐに労働者が集まらないという難点がある。少子高齢化の問題がある。今は円安でもマイナスの効果しか出ていない。物価が上がってくると思うが、物価が上がるのに対して賃金がそれほど上がっていない。消費税と円安で、ダブルで家計が圧迫されている状況であり、消費は厳しいのではないと思う。
	悪くなっている	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者からいろいろ聞いているが、あまり客がいなく、客の動きが止まっているという声が多かったことから、状況は悪くなっている。
雇用 関連 (北陸)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	—	—	—
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・景況の不透明により企業では人員拡充する声は少ない。欠員補充要員として、即戦力者を要望されるので、マッチングが厳しい。
		人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・ここ最近、20～30代前半の営業職、販売職の求人において、未経験でも構わないとする案件も多くみられる。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前と比べて、求人数はほぼ横ばいである。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は変わらず増加傾向が続いている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・ここ3か月の求人数が2700人前後でほぼ横ばいであるため、状況は変わっていない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は横ばい状態にある。製造業においては増加しているが業種間にバラツキがあり、安定しているとはいえない。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材紹介の受注数は横ばい状態が続いている。登録希望者も少なく、マッチングは厳しい。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・状況には特に変化はみられない。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（役員）	求人数の動き	・9月の求人広告売上は、前年同月の5割に届いていない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の件数、売上額が3か月前と比べて落ち込んだ。前年同時期と比べてもマイナスとなり、求人市場は一服した感がある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	—	—	—

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (近畿)	良く なっている	乗用車販売店 (販売担当)	販売量の動き	・賃上げの動きはみられないが、し好品である高級車を検討する客は、良い物や納得できる物であれば、価格が高くても購入する傾向にある。
		住関連専門店 (店員)	来客数の動き	・模様替え需要で来客数が増加している。
		高級レストラン (企画)	来客数の動き	・特に夕食の時間帯の来客数が増加している。
		都市型ホテル (客室担当)	単価の動き	・客室の稼働率は高い水準で安定しており、客室単価は更に上昇傾向となっている。
	やや良く なっている	商店街(代表 者)	来客数の動き	・お盆を過ぎてから消費ムードが悪くなり始め、今に至っている。消費者が節約に目覚めたほか、ヒット商品もない。
		一般小売店〔事務用品〕(経営 者)	販売量の動き	・消費税増税の影響が一段落した感覚があり、少し消費が戻ってきたようである。
		百貨店(売場主 任)	来客数の動き	・入店客数が前年を上回るようになってきた。秋物商品のほか、新しい物や楽しい物、こだわりのある物の動きが良い。
		百貨店(売場主 任)	販売量の動き	・例年よりも気温の低下が早く、秋物衣料品の売行きが好調である。ただし、高額な輸入品については、引き続き消費税増税の影響が続いている。
		百貨店(売場主 任)	来客数の動き	・耐震工事のために売場面積が減少しているため、判断が難しい部分はあるが、3か月前に比べると売上は3%増加している。
		百貨店(企画担 当)	お客様の様子	・気温の変化に伴い、秋物商品が例年よりも早く動き出している。
		百貨店(営業担 当)	来客数の動き	・食料品の動きは低調であるが、新規導入の書籍には顧客動員力があり、新規客が増えている。
		百貨店(外商担 当)	販売量の動き	・気温の低い日が何日か続いたことにより、秋冬物の婦人服の売上が伸びている。来客数も前年を上回ってきているが、大きな伸びではなく、本格的な売上の増加には至っていない。
		百貨店(服飾品 担当)	販売量の動き	・9月に入り、前月後半に苦しかった売上が徐々に回復傾向にある。消耗品で2か月に一度は買いに来る化粧品は、例年この時期に売れる冬の乾燥肌対策のスキンケア商品を中心に回復しており、店舗によっては前年の売上を上回っている。また、し好品であり、この時期に新作が多く出るバッグなども好調である。ダイヤモンドなどのアクセサリは、節約感からか高額品はあまり売れず、価格と品質のバランスが取れている商品が売れている。
		百貨店(売場マ ネージャー)	お客様の様子	・気候の変化によるファッション需要が出てきている。今年は新たなトレンドが明確であり、消費税増税の影響で我慢していた消費が秋物で動き出している。
		百貨店(売場マ ネージャー)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動があった6月に比べると、前年比は約5%改善している。今月は涼しいこともあり、婦人服は高級ブランドなどの高額商材を中心に、売上が前年を上回っている。化粧品も、先月に続き2か月連続で前年を上回った。紳士の重衣料のほか、近隣に大型ショッピングセンターがオープンしたことで、子ども服が苦戦している。
		スーパー(店 長)	お客様の様子	・販売点数、来客数共に回復傾向となっており、消費税増税の影響も予想したほどではない。
		スーパー(企 画)	単価の動き	・客単価は上がっているが、来客数はほぼ横ばいである。消費税増税後の動きについては、食品は影響がみられないものの、衣料品や住居関連品は苦戦している。所得の増加を物価の上昇が上回っており、消費の二極化が進んでいる。
		コンビニ(経営 者)	来客数の動き	・テナントビルの空室が少しずつ埋まってきているほか、駐車場になっていた場所でマンション建設が始まり、工事関係者の来店が増えてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・プレミアム商品の売行きが相変わらず好調なほか、インターネットゲーム用のプリペイドカードの販売量が増加し、客単価が上昇している。
		一般レストラン（経理担当）	お客様の様子	・宴会に参加している、一部の客の様子が明るくなってきている。業種や会社によって明暗が分かれてきているように感じる。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・9月は個人客、団体客共に来客数が計画を上回り、前年比でも増加となった。平日の団体客の利用も好調で、客室稼働率も9月としては非常に高くなっている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・来客数は増えているが、単価が低下気味である。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・客室は、好調なビジネス需要に加えて、台湾や中国、韓国の団体ツアーが円安効果などで大幅に増えている。満室で予約を取れない日も増え、客からの苦情も増えている。宴会は、会場の改装工事で半月以上も営業中止となっており、前年との比較は難しいが、周辺の競合施設では格安のパーティープランが増えているなど、苦戦を強いられている様子である。
		都市型ホテル（総務担当）	単価の動き	・宿泊部門が好調である。稼働率の変動はないが、海外からの観光客のほか、国内観光の家族客の利用が多く、1部屋当たりの販売単価が上昇している。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・今年の7月ごろから来客数が前年を上回っている。理由は複数あるが、特に外国人客の増加が目立つ。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・夏までは客の動きが少なかったが、この時期になって購入や売却などの動きが出てきた。新規顧客も安定的に増えている。
		住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・成約するかどうかに関係なく、売出価格が上がっており、前年比で10%近く上昇した感がある。
		変わらない		商店街（代表者）
一般小売店〔菓子〕（経営企画担当）	販売量の動き			・9月と6月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均で見ると、関西は9月が97.4%で、6月が93.7%、関東は9月が96.7%で、6月が85.4%、中部は9月が96.7%で、6月が89.3%、中国は9月が99.1%で、6月が102.1%となり、各地区合計の平均は9月が97.4%で、6月が92.2%となっている。相変わらず全国的に悪いが、中元商戦時に比べると徐々に良くなっているように思われる。ただし、予断は許されず、依然として厳しい状態が続いていることに変わりはない。
一般小売店〔精肉〕（管理担当）	販売量の動き			・夏休みが終わり、例年よりも早く気温が下がっているように感じる。8月の気候の変調に伴い、野菜が高騰したり、季節感がいつもと異なることで食生活に影響が出ているように感じる。景気とは関係ないものの、商品の品ぞろえが変われば、やはり安く抑えようとする傾向が出てくる。消費税増税の影響も見え隠れしている。
一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	お客様の様子			・国内客向けの販売は少ないが、外国人観光客への販売が増加している。
一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き			・夏物衣料の動きが止まり、少しずつ冬物衣料に移ってくる時期であるが、例年どおり全体としての動きは悪い。季節的な要因が強いため、景気の状態が影響しているわけではないが、景気に明るさを感じるかといえば決してそうではない。
一般小売店〔菓子〕（営業担当）	お客様の様子			・良くもなく、悪くもないという状況が続いている。
百貨店（売場主任）	お客様の様子			・まだまだ経済状態が良くないため、食料品を中心に、ぜいたく品は一部を除いて低迷している。ブランド品の動きも限定的である。消費税増税や円安の進行による影響のほか、東日本大震災の復興も遅れているため、政府の抜本的な対策が早急に必要である。
百貨店（売場主任）	お客様の様子			・今月は気温が低めの影響もあって、秋物の動きが良く、目標を上回る予定である。ただし、商品の動きが例年よりも前倒しとなっていることが大きな要因であり、景気が良くなっているわけではない。不要不急の商品は買わないという客の傾向は変わらず、商品の購入にはむしろ慎重さがみられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・消費税増税後の現金売上は、まだ前年を下回る傾向が続いている。外国人売上や外商の上得意客は、売上が増加基調となっているが、トータルではほぼ前年並みという状況が続いている。
		百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・消費税増税後は、6～8月にかけて来客数や販売数量に回復の兆しが若干みられたものの、9月は天候が昨年に比べて良かったにもかかわらず、来客数が減少傾向にある。特に、ボリューム層の動きが悪い。秋物衣料で盛り上がる時期ではあるが、メンズは好調である一方、レディースが良くない。アイテム別の動きでは、雑貨や靴など、身の回り品が苦戦している。
		百貨店（販促担当）	来客数の動き	・今月は多少波があるものの、前年並みの推移である。ただし、一部の高額品の需要がみられる半面、衣料品が伸び悩んでいる。セール商品も動きが低調である。
		百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・気候の影響で、秋物衣料品の売上は前年比で8%増と好調であるものの、生活雑貨のリビング関連や食器、調理関連のほか、高額品の宝飾、時計の販売量は前年割れが続いている。
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・今月は、先月に比べて天候が安定し、台風の発生も少なく、来客数が増加している。全体的な売上の動きに変化はないが、物産などの催事に限っては来店客も多く、好調に推移している。
		百貨店（商品担当）	販売量の動き	・今月の中旬から気候が安定し、秋物も動きをみせるなど、全体的に回復感が出てきた。また、ここへきて外国人観光客の動きが目立ち始めている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・季節が変わり、月前半から中旬にかけて季節品の動きが活発となった。その後、月後半にやや気温が上がって売行きが悪くなったため、景況感が好転したとは判断しにくい状況である。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・気候条件が良いため、食品以外の季節品の動きが順調で全体を押し上げているが、食料品や日用消耗品は相変わらず販売量が戻っていない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・商品の実質的な値上げや、実はそれほど上昇していなかった賃金など、消費が回復するような話題はない。また、ヒット商品や話題となる商品も少なく、厳しい状態が続いている。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・売上の前年比に変化がない。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・秋の訪れが例年以上に早かったほか、天候不順もあり、販売環境は良くなかったが、野菜や肉の相場高もあり、販売状況は堅調に推移している。
		スーパー（社員）	販売量の動き	・競合店舗が出店した地域は、来客数や買上点数の減少といった影響を受けている。ただし、それ以外の店舗は、チラシ投入日を中心に客の買上数が増加しており、客単価も着実に上昇している。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・ここ3か月は、昨年よりも雨が多かったり、涼しかったこともあり、品ぞろえの面では厳しかったが、販売量は横ばいとなっている。
		コンビニ（店員）	販売量の動き	・来客数が減少しているわけではないが、売上の低迷が続いている。
		衣料品専門店（販売担当）	お客様の様子	・季節的な要因もあるが、買い控えをしている客が多い。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・価格の高い商品よりも、安い商品を探す傾向は変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・消費税増税の影響で先行きは心配であるが、現状は安定している。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・今月に入り、新型車は好調であるが、既存の車種は前年と変わらない。
		乗用車販売店（営業企画）	単価の動き	・9月は中古車業界の繁忙期であるが、月前半は単価が上がってこなかったものの、後半は例年どおりの単価に戻った。ただし、全体としては前半の不調が響いた印象がある。
		その他専門店 [医薬品]（経営者）	それ以外	・東京を中心にデング熱の感染が広がったことで、蚊や虫刺されに非常に敏感になっている。特に、8月下旬～9月上旬にかけては、殺虫剤や虫刺され剤の動きが多かった。
		その他専門店 [宝飾品]（販売担当）	お客様の様子	・来店客のなかに購入意思のある客が少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 [スポーツ用品] (経理担当)	販売量の動き	・4～6月に続き、7～9月も景気が大きく上向くようなムードはない。値上げ感ばかりが目立つ。
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・先月からランチは停滞気味で、ディナーも日によって非常に波がある。
		一般レストラン (経営者)	競争相手の様子	・新たな取組による宣伝効果や、クーポンの期限が迫っていることもあり、9月は来客数が増えたものの、客単価が低いため利益は少ない。他店で話を聞いても、にぎわっている日と閑散としている日の差が大きいようである。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・客からも景気の良い話は聞かれない。昼の来客では主婦層が減少するなど、ランチもより安い店に移る傾向がある。
		一般レストラン (店員)	来客数の動き	・ここ数か月は変わった動きがない。
		一般レストラン (企画)	単価の動き	・平日のディナータイムや土日の営業全般で客単価の低下がみられ、売上全体の減少につながっている。
		その他飲食 [コーヒーショップ] (店長)	来客数の動き	・利用客数、単価ともに前年比で大きな変化はなく、景気が良くなっていると実感できる要素はない。気温が例年よりも低く、客足は鈍化しているため、むしろ景気が悪くなっていると感じる。
		観光型旅館 (団体役員)	単価の動き	・8月の天候不順によるキャンセル分が、9月に入っても取り返せるほど回復していない。
		都市型ホテル (支配人)	来客数の動き	・宿泊は好調を維持しているが、宴会はかなり減少しており、会場の利用が減っている。年末年始の忘年会、新年会の予約も、昨年はこの時期にかなり入っていたが、今年は出足が遅い。
		旅行代理店 (経営者)	販売量の動き	・国内旅行の動きは昨年よりも少し鈍いが、海外旅行は昨年並みの流れとなっている。全体的に夏商戦以降は力強さが感じられない。
		旅行代理店 (営業担当)	販売量の動き	・法人需要は引き続き堅調である一方、一般消費は堅調とはいえないが、潮目が変わったというほどの変化はない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・消費税増税による運賃の値上げで乗車機会の減少が懸念されたが、影響は最小限にとどまっている。
		通信会社 (経営者)	お客様の様子	・公共事業を中心とした建設業界の好景気と、個人消費の買い控えの動きが入り混じり、良いとも悪いともいえない。
		通信会社 (社員)	販売量の動き	・新規契約の落ち込みはそれほど大きくないが、解約数が若干増加傾向にある。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設] (企画担当)	販売量の動き	・前年に比べて人の動きは悪くないが、消費性向はやや落ちている気がする。
		美容室 (店員)	販売量の動き	・パーマやカラーといった単価の高いオーダーがよく出ている。
		その他サービス [ビデオ・CDレンタル] (エリア担当)	販売量の動き	・中心となる商品のレンタルや、書籍、文具の売上は前年並みであるが、旗艦店の売上はかなり好調である。
		住宅販売会社 (総務担当)	販売量の動き	・消費税増税後の回復がみられず、全体的に顧客の動きも鈍い。
		その他住宅 [情報誌] (編集者)	お客様の様子	・分譲マンションは施工費の上昇が顕著であり、販売時期の延期が続くなど、品薄の状態が続いている。本来ならば需要が上回ることで販売好調となるはずが、全体的には好調といえない状況である。
	やや悪くなっている	一般小売店 [時計] (経営者)	お客様の様子	・今月は売上、来客数共に厳しかったが、客の元気がなかったことが印象的であった。常連の若い男性客からは、休みを返上して仕事をして、給料が上がらないので結婚できないとの声が聞かれ、複数の年配の女性からは、おしゃれをする余裕がないという声が聞かれた。明るくて元気のあった客が暗くなってきている。
		一般小売店 [珈琲] (経営者)	それ以外	・円安の進行やコーヒー豆の先物相場の高騰による、原料価格の上昇が予想される。販売価格に転嫁ができるかが今後の課題となる。
		一般小売店 [衣服] (経営者)	お客様の様子	・秋物の売上は良くないが、景気が悪いからなのか、天気が悪いからなのかは分からない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業企画）	来客数の動き	・来客数の動きが、消費税増税後の落ち込みから回復しない。
		スーパー（経営者）	競争相手の様子	・競合店のチラシは、8月末までは週2回のペースであったが、今は2日に1回となり、日替わり商品の価格も下がっている。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・上位顧客の買上金額は上がっているが、来店頻度が減っている。そのほかの顧客も含めて、特売日に来店が集中する傾向が強まっている。賃金の増加が増税の影響に打ち消され、生鮮品の相場上昇も追い打ちとなり、生活防衛色が強まっていると感じる。
		スーパー（広報担当）	来客数の動き	・日常の買物に対する節約志向が強まるなど、消費マインドは確実に低下している。
		コンビニ（広告担当）	来客数の動き	・夏場からの天候不順が原因で、昨年よりも動きが悪くなっている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・気候が落ち着いてきたにもかかわらず、年齢の高い客の来店が減っている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・必要ではない物を買って控える客が多いように感じる。家電業界は売上が落ち込む時期に当たるが、予想以上に販売量が少ない。
		家電量販店（企画担当）	お客様の様子	・白物家電など、夏商戦の対象商品の販売量が大きく落ち込んでいる。秋物商品や太陽光発電関連の販売量も伸びていない。
		住関連専門店（店長）	販売量の動き	・季節の変わり目で売上が増えるはずが、増加がみられない。夏休みから今月のシルバーウィークまでのレジャーシーズンで娯楽への消費が増え、物品の購入にお金が回せないようである。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	お客様の様子	・4月以降の消費税増税の影響や、物価上昇の影響もあり、客の消費に対する意欲が以前よりも落ちている。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・天候の影響かどうかは分からないが、外食、中食共に全体として落ち込んでいるような気がする。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	競争相手の様子	・同業他社ともに、ファッション関連を中心に売上が前年を下回る状況に歯止めがかからない。
		観光型旅館（経営者）	単価の動き	・土砂崩れで道路が通行止めになった昨年9月に比べると、客の入込も例年並みに戻ってきている。ただし、3か月前と比べると客単価は横ばいである。
		旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・消費税増税がここへきてかなり重圧になっている様子である。増税後も所得が増えるといった報道に期待していたが、現実とは予想していたほどでもない。厳しい状況になり、旅行どころではないといった声を聞く。
		タクシー運転手	お客様の様子	・日に日に悪くなっている。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・消費税率が上がったことでガソリン価格も高騰し、全体の雰囲気が冷え込んでいる。
		競輪場（職員）	単価の動き	・3か月前の客単価は9,831円で、今月の客単価は9,691円と低下している。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新築分譲マンションの売行きがやや悪化しており、各社は供給戸数を減らして契約率の引上げを図っているが、モデルルームへの集客が落ち込んでおり、厳しくなっている。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	それ以外	・身近な世帯の給料は上がっていないように思われるほか、円安による物価上昇もあり、買い控えの動きがみられる。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	お客様の様子	・9月の住宅展示場への来場数は昨年よりも増えたが、これは客の反応が鈍く、集客イベントを強化したからであり、家を建てる予定の客は減少傾向にある。
悪くなっている	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	来客数の動き	・消費税増税の悪影響が出ている。	
	一般小売店〔野菜〕（店長）	競争相手の様子	・同業者だけでなく、他業種の企業も持ちこたえられなくなってきた。	
	一般小売店〔花〕（店長）	販売量の動き	・9月は期末で忙しいはずが、今年は暇であり、販売量がかなり減少している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・優良顧客でも、今年は秋冬物衣料を買い控えている人が多い。さらに、高額品の引き合いも減ってきている。
		衣料品専門店（経営者）	競争相手の様子	・4月以降、衣料品店の廃業の動きが増えている。頑張っても売上が伸びないため、営業を続けても楽しくないと感じている人が大半である。
企業動向関連（近畿）	良く なっている	○	○	○
	やや良く なっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の直後に比べると、販売量は少しずつ回復している。ただし、前年実績を上回することは難しい状況である。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・比較対象が消費税増税後の6月であるため、少しは持ち直した感覚がある。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・海外との取引が増えていることもあり、受注量や販売量はやや上向きとなっている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は増えていないが、引き合い数が増えてきている。
	変わらない	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前年と比べて天気が良い日は多かったが、気温が平年よりも低いこともあり、飲料水の売上は伸びていない。
		繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後の動きは、4～6月は想定内であったが、7月以降の落ち込みは予想以上であった。現在も状況は変わっていない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量に変化はなく、顧客からも大きな変化があるといった話はない。
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月は売上が回復したが、9月に入ってまた悪くなるなど、消費税増税後の景気回復は一進一退の様相となっている。
		化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・販売数量が前年比で約3%増となっている。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月は秋の季節需要や多少の民間需要の増加に期待していたが、特に大きな変化はない。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・太陽光発電や燃料電池というエネルギー関連の動きが比較的良好であり、引き合いも増えている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・新築戸建の着工件数や、マンションなどの賃貸物件数の減少傾向に変化はなく、関連商品の受注量が伸び悩んでいる。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・業界全体の荷動きは前年並みで推移しており、大きな変化がない。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内の設備投資はやや上向き傾向である一方、海外の設備は現地労務費の上昇などの影響で、価格競争が激化している。
		その他製造業〔事務用品〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・昨年と比べても、特に変化がない。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・消費税増税前に始まった工事は一段落したが、民間関係の工事が徐々に増加気味である。一方、技能労務者不足の問題が深刻となっている。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・宅地の価格は相変わらず下落傾向が続いており、分譲宅地の引き合いも少ない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前とほぼ変わらない状況であり、受注がもう少し伸びると予想していたが、伸び悩んでいる。
		輸送業（営業所長）	受注量や販売量の動き	・四半期決算の影響もあるのか、9月だけでいえば精密機器の荷動きが良い。
		金融業（営業担当）	それ以外	・消費税増税の影響が依然として大きい。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・中東情勢の不安定さが地政学的リスクとなって、間接的に日本の株価に影響することを懸念している。
		不動産業（営業担当）	取引先の様子	・神戸から事業所が減っており、社宅なども減少している。その結果、社宅や賃貸マンションの空室率が上がり、賃料が下がっている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・紙媒体、インターネット媒体共に、5月以降は売上が前年を下回っている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・今月は、広告出稿について通常と大きく変わった動きはみられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
やや悪くなっている		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・コンサルティングの受注量でみると、あまり変化がない。	
		コピーサービス業(店長)	受注量や販売量の動き	・少し閑散期に入っているが、数か月前に比べても受注件数に変化はみられない。	
		その他サービス[自動車修理](経営者)	取引先の様子	・取引先からの入庫はあるものの、1台当たりの利益が少ない。	
		その他サービス業[店舗開発](従業員)	受注量や販売量の動き	・消費税率の引上げ以降、駅構内の店舗では来客数が前年をわずかに上回っているが、客単価の回復はみられない。	
		その他非製造業[機械器具卸](経営者)	競争相手の様子	・これから注文につながりそうな見積りや、受注の動向にも大きな変化がなく、現状の受注量も同じような状況である。	
			食料品製造業(経理担当)	受注価格や販売価格の動き	・消費税増税が徐々に負担になり、納入単価の条件が厳しくなっている。
			出版・印刷・同関連産業(情報企画担当)	取引先の様子	・弱電業界、住宅関連のメーカーによる販促は、依然として低迷している。最低限度の水準にとどまっております。関西では受注量の減少で中堅印刷業者や紙問屋の倒産が出てきている。出版業界、大学関連では電子書籍の活用が増えていることを考えると、紙の消費量は減少が進むと予想される。
			金属製品製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・売上や受注が少し落ちてきている。
			一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・当社の顧客は原子力発電関連のメーカーが多いが、この分野の景況は悪いため、引き合いや受注が減っている。
			一般機械器具製造業(設計担当)	それ以外	・取引状況は現状維持であるが、生活用品の価格が値上がりしているため、消費意欲は低迷気味である。
			輸送業(営業担当)	取引先の様子	・家具の売上が昨年の80%に減少しており、配達件数が減っている。
			輸送業(商品管理担当)	受注価格や販売価格の動き	・商品の動きや販売量が減ってきている。
			通信業(管理担当)	受注価格や販売価格の動き	・野菜価格が高騰している。
			新聞販売店[広告](店主)	受注量や販売量の動き	・折込件数が減少している。
その他非製造業[衣服卸](経営者)			受注量や販売量の動き	・なかなか消費税増税後の停滞状態から抜け出せない。不要不急のインテリア商品や寝具商品の動きが特に悪い。天候不順もそれに拍車をかけている。	
その他非製造業[商社](営業担当)	取引先の様子	・住宅の着工件数が減っており、照明器具の出荷が落ちている。見積りを出しても20%程度しか受注できていない。			
悪くなっている	○	○	○		
雇用関連(近畿)	良くなっている	—	—	—	
		やや良くなっている	人材派遣会社(支店長)	求人数の動き	・ここ2か月は有効求人倍率が横ばいとなっているが、求人誌をみると求人件数は増えているほか、長期の案件も多くなっている。
		人材派遣会社(支店長)	求人数の動き	・上半期が終わりに近づき、駆け込み需要が増えている。	
		新聞社[求人広告](担当者)	それ以外	・新聞広告の出稿状況をみると、3か月前に比べて関西の地元企業からの出稿が増えている。	
	変わらない	民間職業紹介機関(大学担当)	採用者数の動き	・新卒採用は10月1日に内定式を迎えるが、昨年よりも状況は良くなっているようである。	
		人材派遣会社(経営者)	求人数の動き	・お盆以降、関西の経営者は一様に慎重となっている。先行きは良くなると思われるが、紹介予定派遣などで人物をじっくりと確かめてから、正社員の採用を決める傾向にある。	
		人材派遣会社(役員)	採用者数の動き	・昨年の秋ごろは、金融機関でNISA対応や危機管理対応のための採用意欲がおう盛であったが、現時点では一段落している。そのほかの産業は慢性的な人手不足であり、以前とその状況は変わっていない。	
		アウトソーシング企業(営業担当)	周辺企業の様子	・大きな受託案件もあるが、厳しいコストカットが行われており、全体として外注コストは減らされている。	
	新聞社[求人広告](管理担当)	求人数の動き	・今月も新聞の求人広告に増加の兆しはみられない。どの新聞も購読者の減少で部数が落ち込んでおり、広告の減少に直結している。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は減少となったが、全体のなかで大きな割合を占める製造業では伸びがみられた。秋の観光シーズンを控え、宿泊業も伸びているが、卸売・小売業といった業種では減少しており、注意が必要となっている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・福祉関係の事業所から、求人への応募者が減っているとの声がかかる。建築、リフォーム業者では、人材不足により受注を見送ることも検討しなければならないとの声もある。景気は良い状態であるが、3か月前との比較では大きく変わらない。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・下請建設業者は、確保できる労働者数の範囲内でしか受注しなくなっており、日雇い求人数は頭打ちになっている。賃金の上昇もわずかなものにとどまっている。
		学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・地元の百貨店に行っても、イベント会場以外は閑散としていて活気が感じられない。フロアによる客のばらつきが大きい。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・期間限定での求人需要が多い。長期的に人材を補充する余裕のない企業が多いと感じる。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・新聞への広告出稿量からすると、前年を下回る傾向に変化はない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・今月の新規求人数は、前月比で約20%減、前年比で約6%減となり、製造業を除く産業のほとんどで減少となった。特に、フルタイム求人の減少率が大きい。
悪くなっている	—	—	—	

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (中国)	良くなっている	乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・9月は月初めから客の動きがみられ、売上は前年の105%と店舗計画を達成できた。
	やや良くなっている	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・売上が前年並みに回復してきた。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・7月末以降は前年に比べて正価商品の動きが良く、9月もこの傾向が続いている。また高額商品の動きも良くなっている。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・安い商品ばかりが売れる状況が変わってきた。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・8月の長雨以降、9月に入って30度を超える日は数えるほどしかなく、前年に比べて早い秋入りとなった。この気候は婦人服を中心にファッション衣料にはフォローとなる。特に消費税増税後、シビアな購買傾向がみられたミセス層に復調気配がうかがえる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は3か月前には前年の98%であったが、9月は前年と同水準に回復した。また客単価は前年の101%、売上も前年の100.3%と、少しずつ良くなっている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・9月に入ってから、朝や昼の時間帯の来客が多い。店周辺の建築現場等の工事関係者の増加が影響している。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	販売量の動き	・気温の低下が遅れて秋物衣料の売上が伸びないが、全体の売上はやや良くなっている。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・4～8月は駆け込み需要の反動で最悪の状況であったが、9月後半の受注状況はほぼ前年並みと徐々に回復している。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・新型車が導入され、景気は良くなっている。
		住関連専門店（営業担当）	単価の動き	・高額商品が動くようになった。
	その他専門店〔和菓子〕（経営者）	販売量の動き	・売上は緩やかではあるが上向きである。	
	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・客数は前年に比べて2けたで伸びており、また客数の伸び率は3か月前に比べて2倍となっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (企画担当)	来客数の動き	・宿泊関係では室料単価が好調に推移する一方、宿泊室数が低下していたが、9月は宿泊室数も前年を上回った。また宴会関係も好調であった。しかし料飲店の売上は消費税増税の影響が続いているためか、相変わらず低迷している。
		住宅販売会社 (販売担当)	お客様の様子	・物件広告を掲載すると、客から多少の反応がある。住宅取得に関心はあるものの、景気動向をみながら慎重になっている客の様子がうかがえる。
	変わらない	商店街(代表者)	お客様の様子	・商店街の加盟店に聴いても、客の購買意欲は強くない。業種により程度に差はあるが、消費税増税の影響を受ける店が多い。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・客と会話しても、必要以上のものを買わないようにしている様子が感じ取れる。相変わらず財布のひもが固い印象がある。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・客の買い控えが目立つ。新品を買うよりも、古着を補整する客が多い。
		商店街(理事)	販売量の動き	・この時期は季節の変わり目であり、季節の変動が景気に影響するが、良い材料、悪い材料がともに見当たらない。
		一般小売店〔食品〕 (経営者)	来客数の動き	・来客数は前年割れの状態が続いている。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・9月も先月と同様に、売上が前年比で100%を超える店舗は40%程度である。店長に尋ねても、景気が上向いているとは感じないという話である。飲食店やヘアサロン等のサービス系でも売上は軒並み前年を割り込んでおり、景気回復の兆候は感じられない。
		百貨店(営業担当)	来客数の動き	・気温が低下し秋物商品の動きも良くなってきたが、入店客数とレジ客数がともに前年の96%と前年実績を下回っており、9月の売上は若干前年を下回る見込みである。
		百貨店(購買担当)	お客様の様子	・気温が低くなり秋めいた気候で、寝具関係の売上が良い。紳士用品では高級な紳士服、靴やバッグが売れているが、婦人服については相変わらず消費税増税後の厳しい状況が続いている。
		百貨店(売場担当)	お客様の様子	・駆け込み需要の反動はそろそろなくなる時期と予想していたが、化粧品を中心にまだ影響が残っている。
		百貨店(売場担当)	販売量の動き	・8月の土砂災害から1か月が経過し、ようやく客数と売上がともに前年を上回る日がでてきた。土砂災害の行方不明者がゼロとなり土木復興が本格化して、客の買物へのマインドが戻ってきた感触を受ける。
		スーパー(店長)	お客様の様子	・客はできるだけ安い商品を探しまわり、店を使い分けている。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・3か月前に比べて客単価に変化はない。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・9月の客数の伸びは前月と差がない。単価も変わらない。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・野菜の高騰により、特売品だけが売れている。
		スーパー(総務担当)	単価の動き	・売上と客単価がともに伸び悩んでいる。
		スーパー(業務開発担当)	来客数の動き	・いろいろな商品の値上がり影響し、客数が3%近く落ちている。
		スーパー(管理担当)	来客数の動き	・9月の客数は3か月前の客数から微減であり、大きな変化はない。
		コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・高単価商品の動向はやや鈍化している。客単価は前年と比べてもあまり変わらない。
		コンビニ(副地域ブロック長)	来客数の動き	・客数が前年並みまで戻らない。
		衣料品専門店 (地域ブロック長)	来客数の動き	・9月の来客数は消費税増税直後の4～6月の落ち込みに比べればやや増加しているが、まだ前年水準までは回復していない。
		家電量販店(企画担当)	来客数の動き	・9月も前年比95%前後の来客数が継続している。
		乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・上期決算時期であるが、販売数と整備数はともに前年実績に及ばない。
		その他小売 〔ショッピングセンター〕 (運営担当)	単価の動き	・8月の土砂災害や天候不順の影響を受けて、前年に比べて客の動向が変わってきている。また高額品の動きが鈍くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン (外食事業担当)	来客数の動き	・7月の来客数は前年の96%、8月は前年の98%であった。9月の全体の来客数は前年の100%と大きな変化はないが、時間帯でみると昼の客数が80%台で、夜8時までの客数が90%台と落ち込んでいる。また客単価は前年の105%で変化はない。
		その他飲食 [サービスエリア内レストラン] (支配人)	来客数の動き	・週末の来客数が依然として伸びない。
		観光型ホテル (宿泊予約担当)	来客数の動き	・団体と個人客はともに伸び悩みが続いている。
		都市型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・単価が高くなっている様子はなく、3月前とほとんど変わらない。
		旅行代理店(経営者)	お客様の様子	・1か月前に比較すると、高額な個人旅行の依頼が多く出てきているが、契約にはまだ至っていない。
		旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・客の動きが鈍い。
		通信会社(企画担当)	お客様の様子	・客にモバイル系回線、タブレット、スマートフォンやフリーSIMを紹介する場合、客の関心は大変高いがトータルの料金メリットや家計へのコストメリットを検討する姿勢が強い。
		通信会社(広報担当)	販売量の動き	・新商品を発売したが、特に爆発的に売上が伸びることもなく、消費者は様子をうかがっているようにみえる。
		通信会社(総務担当)	お客様の様子	・依然として放送サービスの加入申込件数が増加している。一方、通信サービスは減少しているが、競合他社の攻勢によるもので、全体としては客の動きは好調である。
		テーマパーク (管理担当)	来客数の動き	・来館者数や販売高はともに前年並みである。
		ゴルフ場(営業担当)	来客数の動き	・天気によって左右される面はあるが、今年に入り客の動きは引き続き好調である。
		競艇場(職員)	販売量の動き	・売上を平均してみると、ほぼ横ばいである。
		その他サービス [介護サービス] (介護サービス担当)	お客様の様子	・客やその家族と話すと、景気の変化がうかがわれる話はここ最近一切聞かれない。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・建築コストが上昇し、いろいろな職種で人手不足が表面化しており、契約できない工事も見受けられる。
		設計事務所(経営者)	来客数の動き	・消費税再引上げを意識した客の動きが出ているが、まだ一部の客に限られている。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・消費税増税後も新築住宅やリフォームの引き合いが順調に続いている。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・消費税増税以降、受注は低調かつ横ばいで推移しており、9月も特別変わった動きはみられない。
		住宅販売会社 (営業担当)	お客様の様子	・問い合わせは決して少なくないが、商談につながる動きは目立たない。
	やや悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・当店は台風や長雨の影響で営業時間を短縮した。また商店街全体を見回しても閑散としている状況である。
		商店街(代表者)	販売量の動き	・8月に売上が伸びなかったのは天候不順が原因であると考えていたが、9月に入っても来客数と販売量とともに低調である。商品の値上がりや収入の増加分を上回るため、客の消費マインドが低下している。
		商店街(代表者)	単価の動き	・消費税増税の影響か、近隣での土砂災害の影響かはわからないが、客の消費意欲が減退している。増税直後にはそれほど景気への影響を感じなかったが、ここにきて景気は悪くなっている。景気が良いというのは、どこの世界の話かと思う。
		一般小売店[印章] (経営者)	来客数の動き	・9月は決算月で通常月に比べて注文が増加する時期であるが、今年は注文が少ない。
		一般小売店[紙類] (経営者)	来客数の動き	・定期的に購入する客が購入数を減らすなど、全体的に売上が落ちている。
		百貨店(売場担当)	販売量の動き	・メガネ等、生活必需品は売れるが、50万円以上の高額品の動きが悪い。催事を開催しても来客が少ない。
		スーパー(財務担当)	来客数の動き	・単価の上昇により売上は前年を上回っているが、来客数は前年を若干下回る状況が現在も続いている。
		スーパー(販売担当)	販売量の動き	・乳製品等、各種商品の値上げの影響で、売上が低迷している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・月に何回も来店する固定客には大きな変化は感じないが、それ以外の浮動客は明らかに特定商品の目的買いをしている。そのため客の購入点数を増加させたり単価を上げるといった取組が難しく、売上の厳しい状況である。
		衣料品専門店（経営者）	それ以外	・京都の問屋に話を聞くと、各地の展示会でも集客と売上がともに落ち、また高額商品を買求める客も数が減っているようである。非日常商品の販売環境は、ますます厳しい。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・来客数は前年の85%程度で、売上は80%程度で推移している。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・冷夏の影響があり、夏物家電は不調であった。またスマートフォンの新製品が発売されたが、前年のスマートフォン発売時ほどの盛り上がりはなかった。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・客は食品等の値上げで家計のやりくりが大変になっており、家電まで手が届いていない。
		家電量販店（販売担当）	来客数の動き	・エアコン等の季節商品の販売時期が終了した。
		自動車備品販売店（経営者）	単価の動き	・当業界では実売価格が下がる一方で、ますます低価格競争となっており、デフレに再突入する感じである。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・高額品を購入する客が減少している。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	それ以外	・当地ではまちづくりの努力が長年行われてこなかったため、素通りされる街になっている。他の都市に比べて活気がなく、客も減少している。
		その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	販売量の動き	・店のリニューアルにより客は増加しているが、売上にはつながっていない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（所長）	来客数の動き	・館内から大型区画ショップが抜けたため、全館の来客数が5%程度減少している。それに伴い他の区画にも影響が出ており、良い方向にはない。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・平日を中心に企業の利用が激減している。また週末の個人利用もあまり良くない。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・夏期商戦が終わった後、かなり来客数が落ちている。各種セールを催し、売上を確保するよう努力しているが、手ごたえは今一つである。
		都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・レストラン来客数や宿泊の当日予約数が、9月に入ってから急激に落ち込んでいる。日用品、食品やガソリンの値上げなどが影響しているのか、市内の市場にも活気がない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・9月の売上は前年の100.2%とほんの少し増加しているが、景気はやや悪い状態が続いている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・例年も9月の売上は8月に比べて低下するが、今年は例年以上に日中、夜間を問わず、人の動きが感じられない。
		テーマパーク（営業担当）	来客数の動き	・バス料金の値上げが団体客の減少につながっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数が減少している。周囲の店も同じ状況である。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・常連客の来店頻度が減り、夏前から来店間隔が伸びる傾向がうかがえる。消費税増税を受けて支出の伸びが収入の伸びを上回るため、客は消費を抑えている。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・地方では、先行きがますます不透明になってきている。会社の業績が上がらないまま社員の収入を無理矢理アップさせても、会社の廃業や倒産が増えるだけである。
	悪くなっている	一般小売店〔酒店〕（経営者）	販売量の動き	・お盆過ぎから急激に景気が冷え込んできた。料飲店でも売上が半減している店が多く、今までは悪いなりに何とか売上を確保できてきたが、現状はそれさえも難しくなっている。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・お中元商戦から継続して売上が悪い。前年より落ち込みがひどく、深刻である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（店長）	来客数の動き	・デイリー品を中心に客の買上点数と客数がともに非常に減少し、客が買物に出る頻度も減少している。また酒はディスカウントストアで、日用雑貨はドラッグストアで購入するなど、品物により買物する店を分ける客が増加している。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	来客数の動き	・前年は出雲大社遷宮効果で客が多かった事情を差し引いても、今年は来客数と売上がともに悪い。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・8月の土砂災害の影響で、人の動きが非常に少なくなっている。市民は消費を自重しているように見受けられ、この状態がいつまで続くのか心配である。
		観光型ホテル（支配人）	販売量の動き	・春以降の売上の落ち込みに歯止めがかからない。特にここ2～3年の間、売上が伸びていた宿泊部門が低調であるため、全体の売上にマイナス影響を与えている。
企業動向関連	良く なっている	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新車の立ち上がりで多忙である。
(中国)	やや良く なっている	化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・製品用途により受注量にバラツキはみられるが、特に自動車向け高機能樹脂原料の受注が増加している。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・鉄鋼向けは8月にお盆休みがあるため生産量が減少していたが、9月は通常ベースに回復した。焼却炉向けの案件も多少入っており、生産水準は回復した。
		金融業（自動車担当）	取引先の様子	・自動車部品メーカーの業績は、利益が過去最高となっている会社が多い。円安により低燃費車の北米向けの販売が好調で、フル操業を継続中である。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・8月に比べて来店数と契約件数がともに伸びている。
変わらない		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・9月から繁忙期に入るが、受注量や販売量は計画どおりに推移している。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量は年明けから堅調に推移している。数年前と比べて仕事量の偏りを小さくした結果、比較的堅調にバランスよく推移している。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・造船分野や設備投資の底堅い動きから、国内需要は堅調に推移している。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は過去半年の間、同水準で推移しており、大きな変化はみられない。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・全体的な受注量は予定どおりとなっている。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	受注価格や販売価格の動き	・売上は仕事量の増加に伴って増加しているが、販売価格の下落や製造原価の上昇等により、収益は依然として厳しい。足元の円安も、海外からの原材料調達額が増加するため、収益へのインパクトは小さい。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・建設関係では仕事量はあるものの、人手不足等でなかなか受注できない。仮に受注しても、建設物価の上昇等で利益が出ない。
		建設業（総務担当）	取引先の様子	・ここにきて消費税増税の影響が顕在化しつつある。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・会社の荷動きについては、大企業は堅調に伸びているが、中小企業や個人商店が低迷している。個人の荷動きは、コンビニ扱い、当店への持ち込み、個人宅での集荷がすべて活発になってきた。
		通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・昨年度と比較して、今年度の情報関連の設備投資は大規模な案件こそ少ないが、中規模な案件が多く継続している。
		金融業（貸付担当）	取引先の様子	・取引先の様子をみると、3か月前と比べ景気は変わっていない。取引先の売上高や販売量からすると、6月時点では駆け込み需要の反動が色濃く残っていたが、9月は落ち着きを取り戻し前年と同水準になっているとの声を聞く。しかし、円安による原材料高に苦戦している取引先もあり、総体的には景気は一進一退である印象を受けている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量の動きに変化はみられない。受注の延期や突発の受注はあったが、大きな変化はない。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・8月の天候不順と冷夏による景気の下振れ状態がまだ尾を引いており、期待していたような景気の回復はなかった。会社員の収入増加もわずかで野菜等の値上がりもあったため、飲食店の業績は良くなかった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・8月を3か月前と比較すると、水揚げ量は430tの減少、水揚げ金額は650万円の増加であった。8月単月の前年比は、水揚げ量が169tの減少で前年の79%、水揚げ金額が650万円の減少で前年の98%であった。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・客の節約傾向が一層強くなってきている。受注量が日に日に落ちている。
		繊維工業（統括担当）	取引先の様子	・原材料の値上げが話題にのぼっており、繊維業界にとって見通しはあまり良くない。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・セメントの出荷量が天候などの影響もあり、少なくなっている。国内全体の景気が持ち直している雰囲気があったが、実感できる前に景気回復の足取りが止まってしまった。当社のような素材産業では景気が良くなる兆しは今のところみえない。
		非鉄金属製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・輸送用機器関連で販売量が減少している。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当社は下請企業であるが、消費税増税前の試算では増税分を吸収可能な売上増加を見込んでいたが、実際には原料や電気料金等の値上げに振り回され、期待感だけの空回りとなっている。
		建設業（総務担当）	取引先の様子	・突発的な仕事への対応に関して、協力業者が対応できる余裕を持たないケースが多いため、発注金額が上昇する傾向がある。反面、当社の受注金額への上乗せが可能なケースはごく少ない。
		輸送業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・天候不順や台風の影響があり、飲料関係の取扱数量が減少している。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・7月以降から通信機器などのリース契約更改において再リースとなるケースが増加しており、設備更改や設備投資を見送るユーザーが増えている。
			悪くなっている	木材木製品製造業（経理担当）
その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注価格や販売価格の動き			・為替が大きく円安に進んでおり、当社のような海外から材料等を輸入する会社はコスト上昇分を消化しきれない。
雇用関連	良くなっている	求人情報誌製作会社（採用支援担当）	求人数の動き	・明らかに新規の引き合いが増加している。電話でセールスしても、客との約束を採りやすい。
(中国)	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・今まで求人情報誌等を利用せず採用活動を実施していた企業からの問い合わせが増えている。来期に向けて広報や体制強化を図る企業が多い点とあわせると、景気は上向いていると感じる。
		職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・新規求人数及び有効求人数がともに前年比で増加し続ける一方、新規求職者及び有効求職者は減少が続いている。このことから有効求人倍率は上昇し続けている。
		学校〔短期大学〕（学生支援担当）	求人数の動き	・求人が増えてきている。
	変わらない	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・人材派遣会社の利用経験がない企業からの求人依頼が少しずつ増えており、景気が上向いているように感じるが、一時的な可能性もあるので、景気判断は変更しない。
		人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・求人数は消費税増税後も堅調に推移している。福祉関連や建設業等の特定業種というよりは、幅広い業種から求人オーダーが出ている。労働市場では、需要が供給を上回る売手市場の状況が続いている。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・求人数は業種や職種によってかなり格差があるため、総合的に判断すると景気にあまり変化はない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・市内中心部でスマートフォンなどを扱う店が突然、一時閉店した。理由は従業員を確保できないためであった。時給は相当良いが、超多忙なため従業員が定着せず、雇う前には従業員の研修が必要となるため、やむなく閉店した。他業種においても総体的に求人は盛んであるが、アルバイトやパートに求人が集中する傾向がある。
		職業安定所（産業雇用情報担当）	求人数の動き	・最近3か月をみると、新規求人数は連続して前年を下回り、月間有効求人数も実数で減少傾向が続いている。当分はこの状況が続く。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（産業雇用情報担当）	それ以外	・8月の求人倍率は1.3倍を超えているが、人手不足の影響を勘案すると、高い求人倍率のみをもって景気が良いとはいえない。
		民間職業紹介機関（職員）	周辺企業の様子	・製造業など特定の業種では、業績や採用意欲が上向いているが、それ以外の業種ではそれほど勢いを感じられない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（経営企画担当）	求職者数の動き	・正社員での就業希望者が増えてきており、有期雇用条件での希望者が減ってきている。企業にとっては明確なキャリアビジョンを発信することが必須である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き	・有効求人倍率は、人手不足が著しい建設関係の影響を受けて高水準にある。ただし、正規労働者に限ると0.86倍にとどまっており、非正規労働者の求人が増えているためである。地方の景気はまだ厳しい。
	その他雇用の動向を把握できる者〔労働機関〕（職員）	求人数の動き	・新規求人は、製造業が前年比で3割減となったのを始めとして多くの業種で減少し、求人全体では1割強の減となった。駆け込み需要の反動から、基幹産業である電機製造業においてスマートフォン関連求人や家電製品製造求人の減少が目立った。	
	悪くなっている	—	—	—

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (四国)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・コンサートの前売券で完売するものが出てきている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・消費税増税の影響からほぼ脱却し、高額商品の動きが活発になっている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・8月後半から来店客数が徐々に増加しており、9月受注台数は増加した。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・8～9月は昨年より少し回復している。宿泊、宴会、ランチ等の客数も増えてきている。道後温泉でのイベント開催中の影響もあるだろうが、良くなっているという実感がある。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・客の引き合いは、3か月前よりは良くなっている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新機種の販売開始に伴い、市場が活性化している。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新機種の発売に伴い、需要が伸びている。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・イベントを開催したことから、特に新規来場者が増えた。また、土地情報に関する問い合わせも増えている。
		変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子
	商店街（代表者）		お客様の様子	・消費税増税後は客単価が減少したままである。
	商店街（代表者）		お客様の様子	・9月は天候も比較的安定し、連休と飛び石連休には人出が多かった。しかし、秋物商戦が非常に悪く、消費者の財布のひもはますます固くなっている。
	一般小売店〔文具店〕（経営者）		お客様の様子	・低単価の取扱商品が多いため、従来は単価にこだわる客は少なかった。しかし、最近は単価について聞かれたり、より低廉な商品を求められることが多くなっている。
	百貨店（販売促進担当）		販売量の動き	・9月は物産展が堅調で中旬までは前年並みで推移していたが、後半の宝飾・絵画催事などが低調で高額品が苦戦。また婦人服を中心に衣料品の不振が続いており、4月の消費税増税以降、改善の兆しが見えてこない。
	スーパー（店長）		来客数の動き	・天候不順に関わらず、8月は一定数の来客数があったが、9月は客数が予想以上に伸びず、苦戦している。
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・売上高は対前年比プラスで推移している。来店客数は前年割れが続いており、青果物の価格上昇が要因となっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・単価上昇と客数微減の傾向が続いている。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・例年通り、年末前の一時的な節約モードに入っており、売上が落ちている。景気としては変化がないと判断する。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・気温の低下とともに来店客数が減少してきている。これは季節要因によるもので従来からの変化はない。
		衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・9月前半にイベントを集中させているため、客数は増えている。月末にかけて来客減を予想しており、前年を下回って着地しそうである。客単価も低下しており、厳しい状況が続いている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・季節商材が売れても他部門が足を引っ張る形で、全体としては継続して低迷している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税後は販売量が下がったままで推移している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・天候、気温の変化によって販売量が大きく変化する。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	お客様の様子	・客単価は若干上がってきているが、客数がやや減少し、売上は前年並みの状態が続いている。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・夏に来なかった客が、9月に入ってから若干戻ってきている。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・9月は、8月の天候不順で落ち込んだ国内旅行需要もやや回復傾向であるが、海外旅行は円安の影響で申込が減っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・四国遍路関連の乗客は少しずつ増えてきているが、一般客が増えない。
		通信会社（支店長）	販売量の動き	・新商品の販売が開始されたが、昨年同時期と比較しても出足が鈍い。景気が良くなっているとは判断できない。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・客単価の低下、並びに来場者の減少が続いている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・来店周期が少しずつ伸びる傾向にある。加えて単価を抑えたメニューに変わってきている。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・特に変わったことはない。
	やや悪くなっている	商店街（事務局長）	来客数の動き	・消費税増税を含めて、実感として物価は確実に上がっている。多くの人が所得の上昇を今後も望めないことを覚悟している。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・気に入った商品であれば少し予算をオーバーしても購入してもらえる。しかし、来客数が減少しているため、景気が良くなっているとは言えない。
		スーパー（統括担当）	来客数の動き	・来客数が2～3%程度減っている。衝動買いはみられず、あらかじめ買物する店を決めるなど、選別が明らかな動きがある。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・7月以降、売上は前年割れになっている。8月の天候不順の影響もあるが、購買力が低下している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・消費税増税の影響は、今後もしばらく続くだろう。
乗用車販売店（役員）		販売量の動き	・全体的に販売量が低調である。	
競艇場（職員）		販売量の動き	・9月の売上は前月比7.4%減、3か月前比16.5%増、前年比5.4%減となった。8月はお盆レースの開催やSGの場外発売もあって、前月比増となったが、9月は大きなレースもなく減少に転じた。	
美容室（経営者）		お客様の様子	・高単価メニューが少なくなってきている。	
悪くなっている	一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・地方の景気は悪く、フランチャイズやチェーン店の外食産業は良いとしても、地元の飲食店は厳しいようだ。卸問屋からも良い話は聞こえてこない。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・全体的に客足が悪い。	
企業動向関連 (四国)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・最近では、再生エネルギー設備の受注がやや増えてきている。固定価格買取制度の買取価格が下落するのではないかという懸念もある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	公認会計士	取引先の様子	・決算、月次の試算表等をみると、前年比でやや改善されている企業が増えてきている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税により、良くなっているとは感じられない。
		鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・主力造船会社との価格交渉において若干の値戻しはあったものの、受注・販売量は伸び悩んでいる。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内受注状況は堅調である。海外向けは地域差はあるが、全体としては堅調である。
		建設会社（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注件数、受注高とも少し増えている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共事業は順調に発注されている。今は昨年度からの繰越分の売上計上が一巡した段階で、現時点では数か月前と変わらない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず、受注が伸びない。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・景気を判断する要因が乏しい。
		金融業（副支店長）	取引先の様子	・設備関連の資金需要が少なくなっている。
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・乗用車販売店では、消費税増税後の反動で依然として前年割れが続いているようだ。地方の得意先も同じような状況で、広告費が抑制されている。
	やや悪くなっている	輸送業（営業）	競争相手の様子	・年末の繁忙期における輸送車両の安定確保を狙い、早々に支払運賃の値上げを発表する同業者が現れた。景気低迷による取扱物量の低下を受け、減収の著しい同業者の中には老朽化車両代替等の車両投資を控え減車するところも出始めている。繁忙期にかけて需要と供給のバランスが保てない状態になりつつある。
		通信業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は、今年度に入ってから、全国的には堅調であるものの、理由は分からないが徳島県だけが非常に不調である。
	悪くなっている	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・ある企業は原料の投入を毎月1週間ストップし、生産調整をしている。また、円安の影響で原料価格が高騰し、原料の輸入量が激減している。
	雇用関連 (四国)	良くなっている	—	—
やや良くなっている		—	—	—
変わらない		人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・派遣就業を希望する求職者数に大きな変化はない。
		人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・年末に向けて人材確保や人材の補充要員を計画するものの、求人を出しても人材が集まらない状況が続いている。現状の社員に負荷をかけている状況。企業からは、景気が良いと実感できないとの声をよく聞く。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数は増加傾向にあるが、求職者の数が少なく就労に繋がらない。
		求人情報誌（営業）	求人数の動き	・求人は採用が厳しい介護・看護、製造業の現場職に多い。実質の求人数は3か月前と比べて減っている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・依然として企業の採用意欲は高く、求人も前年に比べて上昇している。
		民間職業紹介機関（所長）	採用者数の動き	・採用者数については、新卒・中途採用を含め、積極的に増員しようとする企業は少ない。中途採用については、あくまで欠員補充が圧倒的に多い。ただし、福祉・介護関係のように積極的に採用姿勢を見せている業種もある。
やや悪くなっている		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・町中を見ても新しい店も建築されておらず、広告宣伝活動でも折込みやイベントが極度に落ち込んでおり、経営者は非常に慎重になっている。
		職業安定所（職員）	それ以外	・8月の月間有効求人倍率は1.02倍で、3か月前より0.01ポイント減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	—	—	—

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	良く なっている やや良く なっている	○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
	変わらない	○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○
		○	○	○

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子	・8月が涼しく秋物が例年になく早目に動き出したので、衣料品は徐々に復調するかと期待した。しかし、9月は平年並みの気候で動きが鈍り、結果的に8月に前倒しで売れただけだった。客が気温変化に対して敏感に反応している傾向が顕著に見られる。
		百貨店（営業統括）	お客様の様子	・消費税増税から半年が経つが、高額所得者以外の購買が戻っていない。特に婦人高齢層において戻っていない。来客数、来店回数、購買額、単価のすべてにマイナス基調となっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・天候の影響もあるが、生鮮食品では価格上昇に見合った売上の増加がない。価格に対する客の慎重さが散見される。商品全般に値上げの傾向が強く、今後、状況は厳しくなると予想している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・売上は既存店ベースで若干前年割れしている。ただし、生鮮の鶏肉は相変わらず相場高で、売上が好調に推移している。生鮮食品の強化により、客単価は上昇しているが客数は減少している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客数、客単価はあまり変わらないが、買上点数は増えている。安い商品の購入が非常に多くなっている。一方、高額商品は売れていない。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・長雨、日照不足で夏が終わり、秋への移行が早過ぎて、夏、秋の商材とも売行きが中途半端である。長雨による野菜高騰も消費に水を差している。
		スーパー（業務担当）	販売量の動き	・婦人服等の秋物衣料の動向は若干上向いているが、青果の価格高騰と品薄はずっと続いており、食料品全般の販売点数が伸びない。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・当社では消費税を内税で価格表示しているが、他社は外税で表示しているため、見かけは当社よりも価格が安くなっている。それに対して、敏感に反応する程、客の消費マインドが厳しくなっている。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・今月の売上は、量販店が前年比で102.9%、ローカルスーパーが同106.8%、コンビニエンスストアが同96.3%となっている。コンビニエンスストアの販売数量が落ちた分を量販店、ローカルスーパーが何とかカバーし、ほぼ横ばいだが前年を達成した。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・相変わらず客の出足が悪い。
		衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・今月は、高額品をまとめて買う客と、単価が高くないものを吟味する客の二極化が見られた。
		衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・当社の主力部門であるミセスの比較的高額な商品において、消費税増税後、価格に対する客の反応が非常にシビアになっている。今まで2点のまとめ買いをしていた客が、1点で終わるケースも増えている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	家電は、消費税増税の影響がほぼなくなってきている。ただし、今月は天候が極端に悪く、台風の影響もあり、景気の良し悪しの判断がつけられない。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・天候不順による夏物の不振の影響を引きずっている。来客数が減少したままである。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・9月の新車販売台数は前年比、前々年比共に90%弱と低迷している。消費税増税後の反動減の影響は解消しているが、景気回復の足取りは重い。
		住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・今月前半は消費税増税の影響なのか売上が低迷したが、後半は各イベントへの参加やキャンペーンが順調で、前年同月の売上を達成できた。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き	・燃料油のうちガソリンの小売価格は、高止まりから下げ基調に推移してきている。燃料油の販売数量は前年と比較すると、定額・定量購入等やや節約傾向がみられたが、大幅な変化はない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	販売量の動き	・秋物衣料は堅調に推移しているが、食品や日用品の動きが悪い。購入頻度や購入先を吟味する客の動きがみられる。特に、セールやポイント付与のタイミングなどにあわせた購入が顕著である。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	販売量の動き	・消費税増税による駆け込み需要の反動は回復しつつある。既存店ベースで前年売上をギリギリ確保できている。さらにインバウンドが増加しており、好調な施設は前年売上を上回ることができている。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・暑さや台風などの影響で、売上が思ったより伸びない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (販売担当)	販売量の動き	・昨年同月比で客数や販売量に変化はない。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・3か月前と比べて、景気回復の勢いはあるものの良くなっているという実感はまだだない。
		都市型ホテル (副支配人)	単価の動き	・販売量は3か月前から非常に良い。最近2～3か月間、博多駅周辺すべてのホテルで単価が上がっている状況である。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・夏休み以降、旅行客は前年をやや下回った状況が続いている。出張利用は活発であるが、レジャー利用が弱い。
		旅行代理店(企画)	販売量の動き	・国内旅行は前年並みで推移しているが、海外旅行が不振となっている。円安と海外の情勢不安が影響していると考える。
		タクシー運転手	お客様の様子	・月初めからタクシーの動きが悪く、月末で少しは盛り返したが、大したことはなかった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は国体が開催されたのでいくらか良かったが、夜の動きが悪い。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は県外からの客の予約が多く、間近になって予約が入るなど稼働が大変良かった。ただし、夜の繁華街の客は今一つだった。
		通信会社(営業)	販売量の動き	・3か月前は契約獲得キャンペーンを実施しており、今月は契約通常販売月であった。そのため、比較の困難なところではあるが、獲得キャンペーン時も今月も目標を達成しており、達成率においても大きな差異がない。
		通信会社(企画担当)	販売量の動き	・売上の増減がほとんどない。
		通信会社(営業担当)	それ以外	・景気が上向く要素が何も見当たらない。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・以前は、9～10月に秋の運動会等イベントがあったが、最近は春に移行してしまった。景気の良い話しは聞かないし、客も激減してる。
		美容室(経営者)	販売量の動き	・末端では景気回復を実感できない。消費税増税後、客はなかなか動いてないようだ。大手企業の業績は良くなっているが、円安やメーカーの値上げなどで販売が悪くなっている。
		その他サービスの動向を把握できる者[介護サービス](管理担当)	来客数の動き	・医療報酬改定及び消費税増税による負担増の影響が出た。顧客減及び利用回数抑制がまだ続いている。
		住宅販売会社(従業員)	競争相手の様子	・分譲マンションと土地の分譲への問い合わせはあるが、成約に結びつくものが少ないので、あまり良くない。
		やや悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子
商店街(代表者)	お客様の様子		・夏場から不安定な天候が続いており、消費行動に影響が出ている。秋らしい日が数日続いても売上に結びつかない。	
百貨店(営業担当)	単価の動き		・客の買上単価は、今月が特に低下しており、来客数とともに3か月連続で前年割れとなっている。商品別の売上は、紳士服用品が持ち直し、婦人用品では前年を確保しているが、主力の婦人服が前年に届かない。一方、デイリー食品は持ち直し、特選食品、精肉、生鮮ギフトは勢いが戻ってきた。	
百貨店(営業担当)	お客様の様子		・8月は天候の影響が多少あったが、9月は別の要素で買い控えが起きている。超富裕層の消費動向は変わっていないが、一般層は、安くてもなかなか買わない、必要な物しか買わないという傾向が顕著にみえるようになった。	
スーパー(経営者)	単価の動き		・気候変動による野菜の高騰や、消費税増税による高額商品の販売量の低下など、マイナス要因が多い。	
スーパー(店長)	販売量の動き		・競合店の進出もあるが、青果、生肉、生鮮食料品の動きが昨年と比べて苦戦している。特に青果は、相場高で比較的売上が良いと思われがちだが、現状は厳しい。青果と食料雑貨の特売商品が売れない。	
スーパー(統括者)	販売量の動き		・既存店の売上が、前年比及び3か月前よりも悪くなっている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客単価は前年と同水準であるが、天候不順で客足が鈍く、来客数は前年を大幅に下回った。競合店がひしめいているため客離れが大きな原因である。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・今月は客足が鈍い。雨が多く、出かける気分ではないようだ。
		衣料品専門店（チーフ）	お客様の様子	・前年比で来客数が減少している。消費税増税により客単価は上がったが、客数は減少しているため、売上は前年と変わらない。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	来客数の動き	・飛び石連休があったにもかかわらず、天候不順で雨が多かったため、来客数が伸びない。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・9月は来客の波が激しく、トータルすると実績の悪い月となった。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・今月は予約数、来店数共に減少傾向にある。特に夜が減少している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・9月は比較的さわやかな天気にも恵まれたが、タクシー利用は減少傾向だった。客の財布のひもは固く、人の流れも悪くなっている。
	悪くなっている	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・野菜が例年の3～4割高と高騰しており、需要が落ち込む厳しい状況になった。
企業動向関連 (九州)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	農林水産業（営業）	受注価格や販売価格の動き	・業界全体の動きが良くなりつつある。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主原料の収穫期となっているため、受注量、生産量ともに増加している。梅雨から夏にかけての天候不順の影響で、原料の質・量ともに良いとは言えないが、販売量は比較的順調であった。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・定番商品である量販店や百貨店向けの商品はあまり良くないが、企画商品や商社とのタイアップ商品、ブランド商品の販売の動きは良く、受注量も多くなっている。売上も前年、前月よりも良くなっている。
		金属製品製造業（事業統括）	受注価格や販売価格の動き	・上期受注分の生産に追われている状態である。受注先の建設工事は進んでいるが、職人確保が厳しい分、当社への納期要求も厳しい。
		輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響もなくなってきたのか、荷動きは良くなってきている。
		金融業（営業）	取引先の様子	・製造業を中心に設備投資が好調である。関連してIT投資も増加し、雇用も順調となっている。太陽光発電関連の投資は限界に近い高水準である。
		不動産業	受注量や販売量の動き	・銀行は貸したいが良い物件がない状態である。良い物件があった場合、広告が出たらすぐに購入申込が入っている様子である。
		変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き
		繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・円安の影響もあり、中国向けの製品で東南アジアに発注できないものを日本で生産しているようで、国内工場は忙しい。しかし、物流単価の高騰が著しい。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み受注も少なかったが、4～9月の反動減は徐々に収束している。今月の受注件数は、前年比7%増となったが、受注額は横ばいとなった。一度は緩みかけた財布のひもを再び締め直している。	
	化学工業（総務担当）	それ以外	・製品の生産量や出荷量は、引き続き堅調に推移するものと予想される。	
	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・先月まではやや上向きであったが、電力会社の再生可能エネルギー買取保留に関する報道で、今後の動向が懸念される。	
	金融業（従業員）	競争相手の様子	・取引先の客からは、良くも悪くもなく変わらないとの声が聞かれる。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・原材料費の値上げや人手不足などにより、経営環境の厳しさを訴える先が少なくない。一方、消費税増税前の駆け込み需要の反動減や天候不順の影響が次第に薄れてきており、公共工事も高水準で推移している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・建設業関連は受注増で好調であるが、小売業等の業種は売上高が低迷している。総合的にみれば、良くも悪くもない状況が続いている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・設備投資への融資は継続中で、大きな変化はない。
		新聞社（広告）（担当者）	受注量や販売量の動き	・飲料や化粧品通販の広告出稿が前年比10%以上増加したが、旅行広告の落ち込みがあり、全体の売上は前年比横ばいになる見込みである。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・顧問先に新しい提案をしてもなかなか受け入れられない。新規事業より経費節減を重視しており、今後、売行きが伸びない限り新事業は難しいようだ。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注量は、消費税増税の影響が一段落した6月から、横ばいで推移している。8月の天候が悪く、非常に落ち込んでいたので、8月に比べると若干上昇している。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注量や問い合わせの件数に大きな変化がない。
		その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・仕事が途切れず、全体的に高止まりの顧客が多い。本業の生産設備など、これまで先延ばししてきた設備改修の話が多い。M&Aも含めた出資をしたいという話が出てきている。
	やや悪くなっている	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量がなかなか伸びない。予定よりも大幅に落ち込んでいる。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・設備の引き合いが少なく、部品加工受注も悪くなってきた。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・発注元の計画がすべて崩れており、なかなか生産に結びつかず大変困っている。
		その他製造業（産業廃物処理業）	競争相手の様子	・全体的に品不足となっており、仕入れ価格が高騰している。
		建設業（社員）	競争相手の様子	・第2四半期になっても公共工事を受注していない同業者が多い。同業者からの下請で何とかつないでいる。当社も今月になってやっと受注できた。補正予算などで対応してほしい。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷主から預かっている貨物の動きが鈍くなっている。荷動きが少ないので在庫は少し増えてきている。
		経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・高額商品の売行きが悪い。消費者は価格で選ぶようになった。
その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）		競争相手の様子	・市町村からのコンサルタントの発注は、前倒しで公共事業を発注したことで、建設関係が現在はかなり少なくなっている。福祉関係は、高齢者、障がい者、子育てなどの調査計画の業務の発注が重なり、発注量が多い。ただし、これまで福祉に関係なかったコンサルタントが業務を請けるようになり、安く受注するところも出てきた。	
悪くなっている	○	○	○	
雇用関連 (九州)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・大型店舗の新規オープンがあったが、合同面談会には多くの求職者が集まり、早い段階で人材はそろったようだ。また、一部の製造業でも増産になり、人手が欲しいとの注文もきた。
		人材派遣会社（営業）	求職者数の動き	・相変わらず求職者の動きは活発であり、派遣、紹介を問わず人材が不足している。
		職業安定所（職員）	それ以外	・新規求人数が増となり、併せて有効求人倍率も上昇傾向にある。また、4月の消費税増税の影響が薄れつつあり、業況は上向いているとの情報提供を、企業から受けている。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	採用者数の動き	・ここ数か月の統計で、学生の内定者、決定者の割合が昨年より好調で、就職活動継続中の学生は少なくなっている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前年比約170%の求人依頼が、ここ2～3か月続いている。
新聞社〔求人広告〕（担当者）		求人数の動き	・有効求人倍率が飛躍的には上がっていない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数は、今年6～8月の累計が7054件で、昨年の485件減となっている。建設、医療、介護等はもちろん、製造業、飲食業、各種産業において人手不足となっている状況である。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・消費税増税による影響が依然として残っており、管内企業から、業況が良くなったとの話はあまり聞かれない。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・求人数、就職者数をみても変動はない。
		民間職業紹介機関（支店長）	雇用形態の様子	・顧客は、派遣労働者の採用よりも直接雇用を前提とした人材紹介に積極的である。労働者派遣需要は横ばいで推移しているが、パート・アルバイトの人事紹介を希望する商談が増加している。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・学校全体の求人数は、前年比約115%である。医療福祉分野や建築分野では同130%弱の求人数となっている。しかし、全体的な求人数の動きは、ここ数か月変化はなく、企業等からの聞き取りでも極端に求人を増やす状況はない。
やや悪くなっている		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・4月から継続して求人の取扱件数が前年を割っている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・製造業、流通・小売など多くの業種で求人が少なく、新聞求人広告数は前年を下回っている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・資材高騰、人手不足により、地元で建設予定のITビルの工事が大幅に延期、あるいは建設中止という話もある。人手が首都圏に集中しているため、地方は求人を出しても人手が不足している。景気の悪化に地域差が出ている。
悪くなっている		—	—	—

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計動向関連 (沖縄)	良くなっている	百貨店（営業企画）	販売量の動き	・秋物衣料品、特にヤングブランドの売上動向が2けた増と好調である。食品関連でも物産展催事や生鮮食品が好調に推移している。また、売上構成比ではまだ低いが、インバウンド売上も前年に対し2倍の伸びを見せている。	
		やや良くなっている	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・観光客増に加え、気温が前年に比べ2度高く、雑誌、たばこを除く他の部門は顕著に動いている。単価のダウンもなく、当月は好調に推移すると思われる。
			旅行代理店（マネージャー）	販売量の動き	・10、11月の連休を利用しての予約がある。かなり高額になる時期だが、3世代旅行が多いような感じがする。
	変わらない	ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・料金の問題もあるが、客数としては自然増という感じがある。営業努力はさほどしてないが、景気は良くなってきたと感じている。	
		スーパー（販売企画担当）	単価の動き	・客数はマイナス続きだが、客単価がプラスで推移している、この状況が続くのではないかと考えている。	
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・大型スーパーでまとめて買物する人が増えているので、来客数が増加しない。	
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数は前年比で2%ほど減少している。	
		その他専門店〔書籍〕（店長）	販売量の動き	・3か月前と比べても、販売量の動き、来客数共に変化が見受けられない。	
		観光型ホテル（マーケティング担当）	販売量の動き	・稼働率において、前年同月実績を下回る見込み。今月は若干ではあるものの台風の影響により直前のキャンセルも発生したことで、当初の見込みより落ち込んでいる。	
		通信会社（店長）	来客数の動き	・通常9月は夏と冬商戦の狭間で客数、販売数とも落ち込むが、今年は月後半に話題の新商品の発売があり落ち込みはない。まだ在庫が潤沢でないため顕著な伸びは現れてはいない。	
通信会社（サービス担当）	単価の動き	・新商品の発売で前月より販売は増加しているが、効果が落ち着くと元に戻ると思われる。			
住宅販売会社（代表取締役）	お客様の様子	・住宅建築相談の件数が落ちてきている印象がある。踊り場といえるかもしれない。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社 (営業担当)	来客数の動き	・3か月前と同様の来場数となっている。
	やや悪く なっている	一般小売店〔菓子〕	販売量の動き	・消費税増税の影響で、購買が減っている。
		衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・消費税増税の影響があるとみられる。
		その他専門店 〔楽器〕(経営者)	販売量の動き	・台風もなく天候にも恵まれ、また大型店の閉店セールもあり、地域のイベントや祭りも大盛況であった。外国人の人も確実に増加している。しかし売上は前年より減少して厳しい状況である。問い合わせも減少している。
	悪く なっている	商店街(代表者)	競争相手の様子	・商店街は中小企業の集まりである。現在は観光土産店が多くなり、客の奪い合いが起きている。単価的にも利幅が少なく、売上を上げるために各店努力しているが、一般の衣料品等その他に関しては客単価が伸びず、危機的状況である。
その他飲食〔居酒屋〕(経営者)		それ以外	・来客数、客単価ともほぼ例年並みではあるが、平日の地元客の減少を観光客の増加で補っている。仕入原価の上昇に加え、人件費が上昇している上にいくら募集をしても人材確保ができず、戦略の遂行が遅れている点が最も大きな問題である。販管費の上昇が営業利益率を半分以下に押下げ、苦慮している。	
企業 動向 関連 (沖縄)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	食料品製造業 (総務)	受注量や販売量の動き	・今年は天候にも恵まれ、行楽用の食品の販売が好調に増加している。
	変わらない	輸送業(営業)	受注価格や販売価格の動き	・沖縄県内においても人手不足が深刻化しており、人件費アップが徐々に収益を圧迫している。それに対し、客への単価改定が追い付いていない。
		通信業(営業担当)	取引先の様子	・仕事は確保されている。雇用も増えている。仕事の受注も確実に増えているが、単価が低いことに変化がない。
	やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・公共工事向けの出荷は前年比増。民間工事向けの出荷は前年比減。全体では横ばいである。
	悪くなっている	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新築住宅及び住宅リフォームの契約件数が減少している。
雇用 関連 (沖縄)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社(経営者)	求人数の動き	・派遣依頼は堅調に続き、1社から複数の派遣依頼や従来とは異なる部署からの依頼も増えている。
		学校〔大学〕(就職担当)	求人数の動き	・福祉系、建築系の求人が増えてきている。
	変わらない	人材派遣会社(総務担当)	求人数の動き	・正規雇用で求人を出しても、応募が全くこないとのことで企業から派遣会社へ問い合わせしてくるケースが増えている。
		求人情報誌製作会社(編集室)	求人数の動き	・今年6月の週平均の求人件数986件に対し、9月は995件とほぼ同水準である。
		学校〔専門学校〕(就職担当)	周辺企業の様子	・仕事が増えているが、すぐに使える人材がいない。新卒採用をしたいが、今年度は見送っているとの声がある。
	やや悪くなっている	○	○	○
悪くなっている	—	—	—	